

始



香川縣鑛物資源

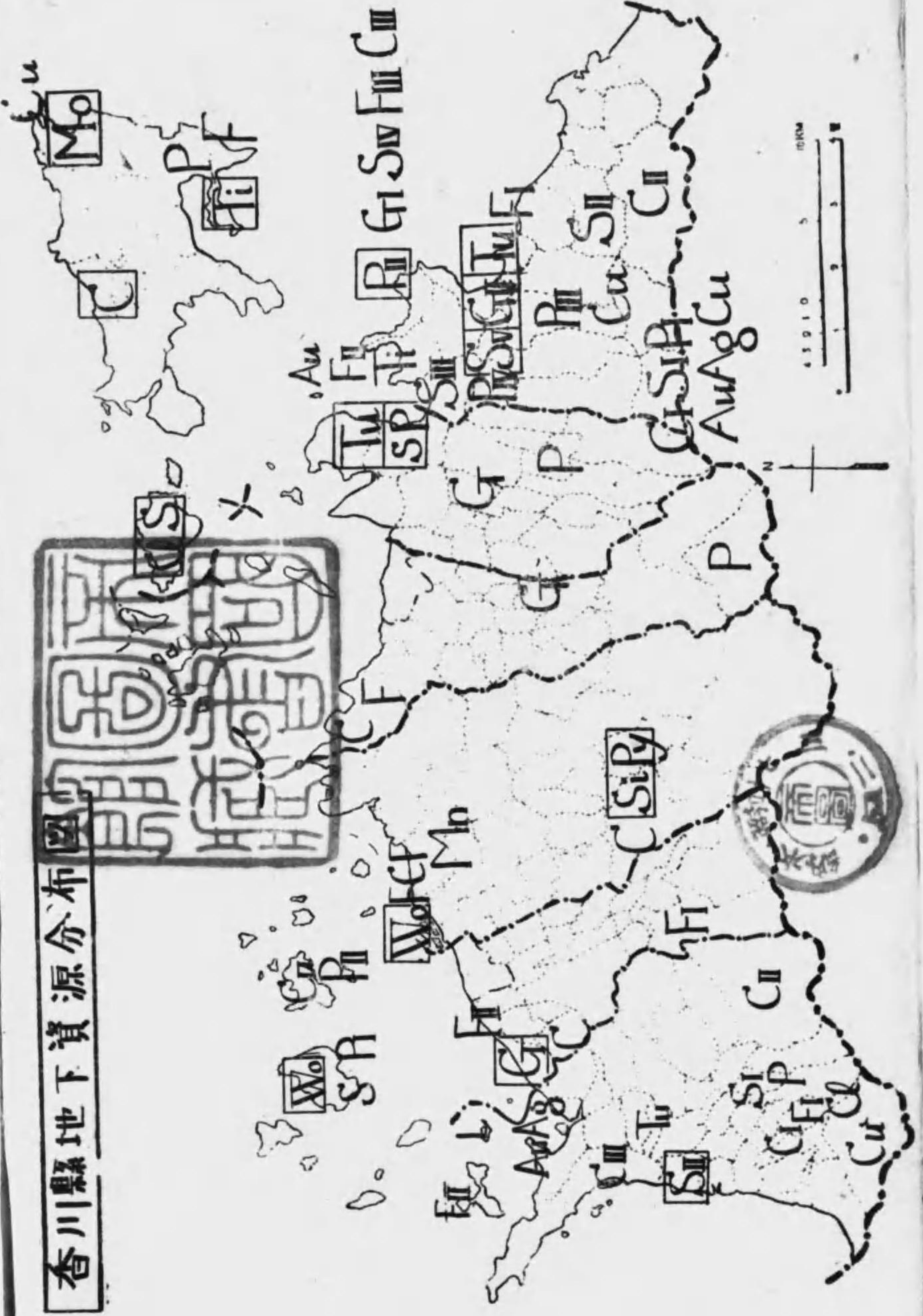
調查報告書

香川縣地方工業化協會

419
97

特 249
989

香川縣地下資源分布圖



目 錄

序 文	香川縣地方工業化協會
縣下地下資源分布圖
調 查 委 員	森 委 員
縣下鑛物質源調查概況	永 井 委 員 長
委 員 會 報 告	坂 口 委 員
調 查 方 針	久 米 主 事 員 森 委 員
調 查 報 告	各 委 員
結 言	久 米 主 事

附 記 博 物 學 會 會 告



序

今ヤ邦家總力ヲ擧ゲテ大東亞新秩序建設ニ邁進シ高度國防國家完遂ト生産力ノ擴充ハ刻下ノ喫緊事タリ。殊ニ事局下重要物資タル鑛物資源ノ開發ハ彌々緊急ナルモノアリ政府ニ於テモ既ニ重要物資増産法（一三、六、一〇）ヲ施行セラル、アリ、砂鑛法（一五、四、六）改正其ノ他探鑛獎勵金交付規則（一五、四、一九）選鑛場設置獎勵規則（一五、五、一七）及石炭増産獎勵規則（一五、五、四）等着々改正セラレ以テ劃期的振展ヲ期セラレツ、アリ、茲ニ本協會ハ其ノ事業ノ一タル未開發資源ノ探究ニ力ヲ致シ之レガ事業化ヲ期シ以テ興亞ノ大業ヲ翼賛シ奉ルハ意義アルモノトシ本年度初期ニ於テ永安會長殿ノ鞭達指示ヲ仰ギ之レガ運動ニ着手スルニ至レリ。

先ヅ國民學校並ビニ中等學校長ヲ煩シ鑛物資源發見ノ端緒ナル小プリントヲ送付シ縣下各地ニ於ケル資料蒐集ヲ依頼スルト共ニ鑛石鑛山發見ノ手引ナル小冊子ヲ印刷シ之レヲ各國民學校及ビ中等學校並ニ關係市町村ニ配布シ以テ探鑛上ノ關心ト智識ノ普及ニ力メ一面縣下中等學校博物學關係職員ニ依ル博物學會ニ對シ本趣旨ヲ以テ實地探究方ヲ委囑セシ處時局柄校務極メテ多端ナルニモ拘ハラズ邦家ノ爲奮起セラレ全學會員十三名ノ快諾ヲ得茲ニ縣下鑛物資源調査委員會ヲ組織セラレ直ニ調査ニ着手

セラレ以後調査方針並ニ調査方法ノ協議、中間報告ノ爲委員會ヲ開ク事四回、實地調査ノ爲出張延日數百十余日ニ涉リ或ハ風雨ヲ凌ギテ路ナキ山嶽ヲ踏破シ或ハ風雨荒ブ島嶼ヲ跋涉セラレ銳意本縣鑛業振展ヲ期セラレ茲ニ其ノ結果ヲ蒐輯スルヲ得タリ。

抑モ本縣ニ於ケル此種事業ヲ顧ルニ大鐸四海村ノ炭鑛、安田村ノチタン砂鉄鑛、廣島村手島ノタンブステン鑛、津田町ノ柘榴石、豐島村ノ蛙目粘土並ニ各地ノ陶土陶石等ハ其ノ主ナルモノニシテ目下稍事業化サレツ、アリ、尙長炭村ノ硅線石、多和村、詫間村等ノ金鑛其ノ他稱ヘラル、モノアリト雖モ未ダ其ノ事業化ヲ見ザルヲ遺憾トス。果シテ本縣ハ斯ク鑛産ニ恵マレザルヤ之レガ窺ヒ知ルノ資材ナキヲ憾ム。茲ニ其ノ一段階トシテ前期各學校長及各委員ノ報告書ヲ蒐輯シ之レガ基礎的資料タラシメントス、以テ斯業ノ參考トナレバ望外ノ幸ナリ。

本報告書ノ編纂ニ當リ茲ニ知事閣下ノ御指導御鞭達學務關係各位ノ御理解アル御支援並ビニ委員長始メ各委員ノ御勞苦ニ對シ滿腔ノ感謝ヲ捧グル次第ナリ一言述ベテ序トス。乞フ御推讀アラン事ヲ。

昭和十六年十一月

香川縣地方工業化協會

圖 版 説 明

圖中の□印は採行中の鑛山を示す

三 豊 郡

- CI 紀伊村の石炭
- CI 財田村の石炭
- CI 仁尾町の石炭
- AuAg 詫間村の金銀
- Cu 五郷村の銅
- FI 紀伊村の褐鉄鑛
- FI 粟島村の砂鉄
- SI 辻村の硅砂
- SII 高室村の硅砂
- P 辻村の陶土
- CI 紀伊村の白粘土
- Tu 比地上村の白色凝灰岩
- L 志々島の石灰岩

仲 多 度 郡

- C 吉原村の石炭
- Cu 本島の銅
- FI 十郷村の含鉄鑛物
- FI 多度津町の砂鉄
- Wo 廣島村のタングステン

- G 白方村の柘榴石
- S 廣島村の硅石
- PI 廣島村の長石
- PII 本島の長石

綾 歌 郡

- C 長炭村の石炭
- F 宇多津町の鐵
- Mn 坂出町の軟マンガン
- Wo 宇多津町のタングステン
- Ci 宇多津町の螢石
- Si 長炭村の硅線石
- Py 長炭村の蠟石

香 川 郡

- C 下笠居村の石炭
- F 下笠居村の褐鉄鑛
- G 淺野村の柘榴石
- P 安原上西村の陶石

木 田 郡

- G 前田村の柘榴石
- S 牟禮村の硅石

- PI 氷上村の陶石
- PII 牟禮村の長石
- Tu 牟禮村の白土

小 豆 郡

- C 北浦村大鐸村の石炭
- Cu 福田村の銅
- F 坂手村の酸化鐵
- Mo 福田村のモリブデン
- P 苗羽村の陶石
- Ti 苗羽村のチタン
- Si 豊島の硅砂
- Cl 豊島の木節粘土、蛙目粘土

大 川 郡

- CI 多和村の石炭
- CI 福榮村の石炭
- CI 小田村の石炭
- Au, Ag, Cu 多和村の金、銀、銅

- Au 鴨庄村の金
 - Cu 五名村の銅
 - FI 丹生村の砂鉄
 - FI 鴨庄村の黄鉄鑛
 - FI 小田村の含鉄鑛物
 - Ti 鴨庄村のチタン
 - GI 小田村の柘榴石
 - GI 津田町の柘榴石
 - SI 多和村の硅砂
 - SII 譽水村の硅石
 - SIII 志度町の硅石
 - SIV 小田村の硅砂
 - SV 神前村の硅石
 - PI 多和村の陶石
 - PII 小田村の陶石
 - PII 富田村の陶土、陶石
 - PII 造田村の陶石、陶土、砥石
 - Tu 鶴羽村の白土
- (森)

香川縣鑛物資源調査委員

委員長	高松第一中學校長	永井徳洞
委員	師範學校教諭	森通保
	女子師範學校教諭	豊澤豊雄
	高松中學校教諭	八幡榮作
	高松第一中學校教諭	坂口清一
	三豊中學校教諭	高瀬益次郎
	小豆島中學校教諭	中村泰匡
	高松高等女學校教諭	猿谷芳太郎
	高松第一高等女學校教諭	松尾寛
	明善高等女學校教諭	杉山鶴吉
	丸龜高等女學校教諭	小松擴
	津田高等女學校教諭	岡藤八
	木田農業學校教諭	力久正巳

縣下鑛物資源調査概況

學會は今回縣當局より縣下地下鑛物資源調査方の御依頼を受くるや、時局下甚だ緊要且急務と考へて、直ちに7月12日香川縣博物學會理事會を招集し協議せしめた結果、理事會の決議として微力ながら當局の御意志に添ひ努力奉公を致すべく決定した。依つて縣下博物學會員中より該方面に堪能にして且つ勤務地と調査地の狀況等をも考慮して別記十二委員を當局に推薦して茲に縣下地下資源調査委員會を組織して當局の御方針に則り短時日に一先づ縣下の鑛物資源の現地踏査を完うすべき方針の下に7月17日第一回委員會を開いた。此の協議の結果鑛物資源の指針となるべき調査事項を印刷して、之を縣下に廣く配布し、引續き「鑛石鑛山發見の手引」なる小冊子をも配布して縣民各位の後援を乞ふと共に、國民學校、中等學校には前記調査事項に基く報告書を求めた。又新聞社其他一般の應援をも求むる事とした。而して委員は勤務地を中心として分擔地を定め、現地調査を行ふべく大綱を決定した。夏季休業中十委員は延日數十餘日、百五十餘箇所の現地調査を行ひ、引續き中等學校、國民學校よりの調査報告書纏るや、之を協議吟味して再び9月10月11月の休日を利用して十委員は延四十餘日五十餘ヶ所の調査を行つた。此の間委員會を開く事前後四回、本調査報告書を編纂する事になつた。併し短時日にして小人數の委員の行ひたる調査故、不十分に且つ不徹底の箇所は免ぬれないが、今後の機會にその缺を補はんと願ふものである。

尙此の度の調査に當り縣商工課久米主事殿は善く委員の指導に盡力せられ凡ゆる御協力を惜しまれなかつた事は勿論、學務部長殿には調査事項の配布と報告書の取纏め等につき、御多忙なるにもかゝらず御理解ある御後援を賜つた事を深く感謝すると共に、各委員もよく當局の意を體して協力一致眞に官民一致の實を擧げて本調査を行ふ事が出来た喜びを調査概況を記するに當り附言する次第である。(委員長永井)

委員會報告

第一回委員會

場所及期日 於高松第一中學校 昭和16年 7月17日午後 1時半より 5時まで

出席者 久米主事 委員 11名

協議及議決事項

- 1、別記「礦物資源發見端緒としての調査事項」の印刷物を縣學務課を通じて縣下國民學校、中等學校に配布してその報告を求むる事。
- 2、縣工業化協會に於て「鑛石鑛山發見の手引」なる小冊子 300部を編纂して縣下に配布する事。
- 3、調査に要する地圖、參考文獻につき懇談協議。
- 4、現在開發されつゝある鑛山及び試堀中の鑛區並びに文獻、記録等により判明せる主なるものにつき、各委員の知見の發表。
- 5、前項に基き明かにせられた鑛山、鑛區の再調査を夏季休業中に完了すべき事。
- 6、調査事項の概要と報告書様式の決定。
- 7、委員分擔地區の決定。

三豐郡	高瀬、八幡
仲多度郡、丸龜市	小松、猿谷
綾歌郡	杉山、豊澤
香川、木田郡	森、力久
大川郡	坂口、岡
小豆郡	中村、松尾

第二回委員會

場所及期日 於高松第一中學校 昭和16年 9月13日午後 1時半より同 5時半まで。

出席者 久米主事 壺井書記 永井委員長 委員 10名

實地調査報告並びに報告書摘録の配布

各委員より現地調査の報告を標本を示しつつ行ふ。後久米主事より國民學校並びに中等學校に依頼せし調査の報告書の摘録を配布。

協議事項

- 1、委員の調査報告書を 9月20日までに纏める事。
- 2、9月以降の調査は、前記報告書摘録の完成を待ちて小委員會を開き調査すべき候補地決定の上各委員に割當て九月下旬より實地踏査が出来る様準備する事。
- 3、久米主事より本調査完了後専門技師を招き座談會を開きたき意見を述べられた。

第三回委員會

場所及期日 於高松第一中學校 昭和16年 9月25日午後 2時半より同 5時半まで。

出席者 久米主事、永井委員長、高松市内委員 5名。

協議事項

- 1、縣下國民學校及中等學校よりの調査報告書摘録を吟味し、調査地決定。
- 2、委員分擔地區決定
- 3、十月中に四日間全委員實地踏査すべき事。
- 4、第四回委員會を十一月三日午後一時より高松一中に於て開くこと。
- 5、委員會には各委員は現地調査報告書及標本を用意すること。
- 6、報告座談會を十一月八日縣廳に於て開くこと。
- 7、鑛山監督局へ標本の分析依頼及専門技師の招致等は永井委員長及久米主事に於て交渉すること。
- 8、調査報告書は本年度香川縣博物學會誌に編纂すること。

第四回委員會

場所及期日 於高松第一中學校 昭和16年11月 3日午後 1時より同 6時まで

出席者 久米主事 委員長 委員 8名。

實地調査報告 第二回と同じ

協議事項

- 1、座談會開會につき各委員の役割を協議す。
- 2、今後共機會ある毎に調査に留意して調査の完成に努力すること。

(坂 口)

調査方針

香川縣は古來石材、陶石、粘土等を産出する事多く、特に石材は良材の聲價高き石材を切出す丁場が少くないが、所謂鑛物資源と一般に稱せられる如き有用鑛物の産出は甚だ稀で、小豆島の大鐸炭坑の如きは稍々著はれた産地として數へられるが、其他には鑛山と稱せらるべき有用鑛物の産地は殆んど聞かない。又縣下の鑛物、地質に就いて記述せる文獻も極めて少く、委員に於て氣付いた丈の文獻は下記の如きもので、此の他のまとつた文獻は寡聞にして承知して居ない。

浦上 仁一：香川縣島嶼に於ける地質鑛物及植物の分布現象。

坂田 勳：香川縣地誌

全：香川縣地質圖

商工省：高松圖幅

全：丸龜圖幅

全：日本地質鑛産誌

京都帝大鑛物教室：我等の鑛物 第八卷第九號

従つて今回の調査に於ても、文獻を研究し學理に則つて探鑛計畫を立てる如き事は全然望まれず、さりとて限りある委員の從來の觀察による知見のみでは十分でない事は明かである。茲に先づ鑛物資源の發見端緒としての資料を蒐集する必要を生ずるに至つた。依つて下記の如き調査項目を印刷して廣く材料の蒐集に務める傍、縣工業協會に依頼して「鑛石鑛山發見の手引」なる小冊子を編纂して一般大衆の探鑛の資に供した。

鑛物資源發見の端緒としての調査事項

- 1、町村等で鑛物や鑛山に関する口碑傳説。
- 2、古老から鑛物や鑛山に関する昔話を聞いて、探す手懸となる事項。
- 3、古い文書等に舊藩時代の文書に依つて金山奉行や金屋敷の跡等で手懸りとなる事項。
- 4、大字小字又は山とか川等の名が金、銀、銅、鐵等に関係ある地域につき手懸となる事項。
- 5、一部又は附近一帯に異様な臭がするとか、植物の生え方が變だとか、滲い水や黒い水などが出て土や岩石の色や光澤の變つたもので、手懸りとなる事項。

従つて仕事の順序として委員の夏季休業中の調査は専ら既に廣く知られた採掘場又は鑛區並びに委員に於て心當りある鑛物産地を一應調査する事とし、別項(第一回委員會決議事項参照)の如く受持區域を定めて九月初旬までに完了して9月13日の第二回委員會に於て第一回の踏査報告會を開いた。而して有望な標本と考へられるものは凡て久米主事を通じて大阪鑛山監督局に分析を依頼した。

又縣下國民學校及び中等學校から集つた調査報告書は久米主事の許で整理して以下の如き摘録を作成した。

鑛物資源調査回答摘録

大川郡

多和村

- 1 大窪寺の南東大藪に金鑛黃銅鑛露出すといふ。
- 2 女體山の中腹にクロム鐵鑛の露出ありといふ有望ならむか。
- 3 護摩山の中腹にクロム鐵鑛マンガン鑛の露頭ありといふ。五名村方面へ鑛脈續かむ。
- 4 多和國民學校より大窪村までの沼道に珪石の露頭ありといふ。引田の方へ續かむ。(以上志商)

- 5 大窪村の或山に金鑛及び無煙炭あり。 (師範)
- 6 多和國民學校附近より大窪寺に至る間に石炭を産出す。 (高中)
- 7 兼割より神山村五名村に通じ、ニツケル及金の鑛脈あり。
- 8 大寶寺山の西側に金鑛あり。
- 9 中山に陶土ありて名古屋方面に積出せしも輸送不便のため目下中止せり。
- 10 横川に石炭ありて約二十年前に試掘せしも品質良からざりき。
- 11 大窪寺山道に切割ありて、地層に石炭の現れし所あり。 (以上一中)

五名村

- 1 拂川には地上幅五尺の露頭あり、黑色にして黄銅鑛、黄鐵鑛、金を含有すと言はるも肉眼にては見當らず。
- 2 鈴竹の銅床に黄銅鑛末あり、約二十間の横坑存せり。 (一中)
- 3 五名村字堂床に金鑛あり、藩主の命により採掘せられしも中止され、明治初年藤井氏により再び約六十間の横坑により試掘され、又最近阪神地方より來り調ぶるも金の含有量少くて採掘されずと。 (五名國)
- 4 字日下に金口といふ所あり、附近に鏡の裏に着ける水銀を産すれども量少しと傳へらる。 (五名國)
- 5 大橋の大坂峠の北側は土や水の色が澁いと云ふ。 (大中)

福榮村

- 1 西山に石炭が出ると言ふ。
- 2 大字入野山黒川の櫻木附近より硫黄を含む冷泉出で、地方民は温泉と稱し居れり。 (福榮國)

相生村

- 1 坂元は石炭地蔵の名あり土黒く石炭にあらざるか。 (大中)
- 2 川股及坂本(椿谷)に石炭らしきものを發掘せり。 (相生國)

引田町

- 1 城山に昔石炭を産せし舊坑あり。 (大中)

白鳥本町

- 1 小松原與治山白岩に石炭及柘榴石あり、試掘せしも失敗せり。 (大中)
- 2 伊豆中山の池附近工事中に石炭ありとの噂ありたり。 (大中)

譽水村

- 1 川東字中戸に硫黄及螢石陶土を産す。 (師範)

丹生村

- 1 字番屋波止場に白雲母あり。 (大中)
- 2 北山海岸の砂中に金色に光る黒色の砂あり。 (大中)

富田村

- 1 末行に赤黒い水出、麓には浴場あり、又此に金鑛と稱する二十米位の舊坑あり。 (大中)

- 2 字筒野には陶土を採取中なり。 (木田農)

石田村

- 1 金山には黄銅鑛、天王山には金鑛及黄銅鑛あり。 (志商、師範、高中)
- 2 石田村東山王に鐵鑛の舊坑あり。 (大中)

- 3 天王山に金鑛及水晶あり、二、三年前電力を用ひ採掘せしも不採算にて中止せり。 (石田國)

- 4 金山に鐵鑛を産し奥行十米位の坑あり、あたり一帯に露頭を認む。昨年試掘願をなし鑛山盛督局より出張調査したるも未だ採掘するに至らず。(石田國)

- 5 石田東字門入にて銅を採掘せしことあり。 (木田農)

長尾町

- 1 前山の砂防工事場に金色を呈せる砂あり。 (大中)

造田村

- 1 大バツ山に水晶及砥石を産す。 (大中)

津田町

- 1 雨瀧山に黄銅鑛らしき鑛石あり。又北山(第二津田)には金鑛ありしと古老の言あり。 (志商)

- 2 雨瀧山に鐵鑛を採掘せし舊坑あるも貧鑛なりきといふ。 (一中)

- 3 「ヒョダ」にて金剛砂を採集中なり。 (一中)

- 4 火山に石炭の舊坑あるも質悪かりき。 (大中)

小田村

- 1 馬ヶ鼻に石炭採掘の跡あり、又苦張には黄銅鑛の露頭ありといふ。 (志商)

- 2 馬ヶ鼻水落に石炭あれども質悪し。 (大中)

- 3 小田村に石粉を産し、大阪の某會社へ輸送す。 (師範)

- 4 馬ヶ鼻海岸に接して坑道あり、縦横の坑道合せて二十餘間あり四十年間前に山林所有者より試掘されしも石炭らしきものなく、或は炭化の程度低くて中止せりと。 (小田國)

鴨床村

- 1 長濱に金採掘の跡あり。 (志商)
 2 字ヒヨジ奥地附近の岩石中より黄銅鑛出づといふ。 (高商)
 3 大字東山白河原大池の奥に金剛砂あり。 (大中)

木 田 郡

神山村

- 1 字宏野の川中に青色の鑛石あり。奥鹿に續き銅を含有せるならん。 (志商)
 2 鹿庭二區に黄銅鑛の産出ありといふ。 (志商)

田中村

- 1 大字小菘及神山村奥山津柳の石槌山には白銅鑛の貧鑛ありとの傳説あり。 (小菘國)

西植田村

- 1 上佐山に金及銅の試掘坑あり、約四十五間の坑道あれども水溜りて入り難し。 (高中、師範)
 2 尾佐山に金掘場と呼ぶ横坑あり。岩石など茶褐色にて金を産出せりと。 (師範)
 3 上佐山の中腹に深さ二十米の坑あり、明治初年村尾墓山之れを試掘せしも少量の鐵分にして運搬の不便等により中止せり。岩石は黒褐色にして洞穴より出る水は萬病に効あり。 (植田國)
 4 上佐山の東南に深さ五米の坑あり。金を産するとて昭和八年試掘せしも二百分の四の含有量にて中止せり。 (植田國)

林 村

- 1 六條字下原に石炭の舊坑あり、明治初年之れを試掘せしものにして坑道十四五間あり、黒褐色にして火力弱く臭氣あり。 (一中)

前田村

- 1 吉雄山に柘榴石の小粒あり。 (高中)

平井町

- 1 平井町芳山に柘榴石あり。 (木田農)

牟禮村

- 1 役土には昔金を採掘せしことあり、又原(原神社)にても金を採りしことありと。 (高商、志商)
 2 金山及相前山にて金を掘りしことあり。 (木田農)

庵治村

- 1 高尻には銅を採りしと稱せらる奥行七十米の舊坑あり。 (一中)
 2 庵治村には砂金が出ると云ふ。 (女師範)
 3 高島西岸の絶壁に幅三十米位の珪石の層あり。 (一中)

香川郡及高松市

鹽江村

- 1 字樺川に銅鑛の舊坑あり。
 2 鹽の江鎧岩には黄銅鑛を産出すといふ。 (高中)
 3 大瀧山には砂鐵鑛出づといふ。 (高中)

安原村

- 1 下切に石炭を産出す。 (高中)

川東村

- 1 油山には水晶及黒曜石を産す。 (師範)
 2 油山には油が出るとの傳説あり。 (一中、高中)

淺野村

- 1 高塚山に柘榴石あり。 (一中、師範)

檀紙村

- 1 昔より陶土を産し年額十萬余圓の陶器を製す。
 2 魔性山伽藍山に歌塚と稱する地あり、十餘年前金を掘りしも失敗せりと。

下笠居村

- 1 新在住吉川尻に砂金あり、約二十年前に採掘せしことあり。 (一中)
 2 金山には金出づるも含有量少く採算不能にて中止せり。 (高中)
 3 東山の南串山の海岸に金の舊坑あり。 (一中)

- 4 川窪谷に「オンドゴエ」北側の海にて五、六年前高松の某氏は金、ニッケルを試掘せるも四ヶ月程にて中止せり。
- 5 垂水原内黄峯山西南部に褐鐵鑛の薄層あり。 (高松高女)
- 6 金峯より金を採りし坑道あり。 (高商)
- 7 小阪にて錫、亞鉛を試掘せしも中止せり。 (一中)
- 8 紅峯には銅、錫、亞鉛ありと言ふ。
- 9 中山森尾部落には石炭を試掘せしことあり。
- 10 中山湯の谷は數百年前は温泉なりしといふ。
- 11 桑崎の尾路に石炭を産すと傳ふ。
- 12 龜水、弓弦羽部落にて龜山某宅前に舊坑あり。其の一つの坑は相當深く十年前同村山下傳三郎氏試掘せしことあり、數年前も某氏等試掘せしも中止せり。 (以上一中)

高松市

- 1 石清尾山摺鉢谷南方にて約三十年前山林を開墾せしときマンガン鐵鑛を發見せり。 (高商)
- 2 屋島町湯の谷には昔湯湧出せしと傳ふ。 (高商)
- 3 屋島町長崎の鼻より砂金出づ。 (高中)

小豆郡

淵崎村

- 1 字大谷四海村海岸の舊坑は、約十五年前金鑛を試掘せしものなり。

池田町

- 1 大字中山「ウスキ」と云ふ山腹に金掘場と稱する地あり、明治十年頃神の御告とて某氏之を試掘せしも効なく、舊坑のみ残れり、今附近に黄銅鑛らしきもの散見す。 (池田第三國)
- 2 中山西部落にて炭層を發見し、明治三十年頃採掘を始め約五十間位掘りしも質悪くて中止せりと、現在其の坑附近は水田となれり。 (池田第三國)

二生村

- 1 大字二面字牛ヶ浦と小池の中間山麓の海岸に陶器原料の長石及風化物を産す (小豆中)

- 2 二生峠附近は酸化鐵を含む地下水の湧出する所あり。 (小豆中)

草壁町

- 1 神懸山石門にて大理石を發掘せりと。 (師範)
- 2 石門より五町左側に鐵鑛を採掘の舊坑あり。約四十年前に試掘せしものなり (小豆中)
- 3 字東條に金を産すると約十間の坑を掘りたるも失敗せり。 (小豆高女)

安田村

- 1 大字橋笠ヶ鼻水落谷海岸にある酸化鐵、黄銅鑛を含み幅二米長さ三十米の鑛脈花崗岩中に現はれ茶褐色を呈す。 (小豆中)
- 2 安田村より橋に至る舊道に酸化鐵を含む褐色の鑛石あり。 (小豆中)
- 3 星ヶ城より安田に至る地方に金鑛ありと噂あり。 (小豆中)
- 4 三五郎池北約一里の高地鳥居善藏氏の所有地に金掘場の跡あり。 (小豆中)

苗羽村

- 1 古江俗稱龜の浦は陶單原料の石あるも、現在は採取を中止す。

坂手村

- 1 坂手觀音近くの右側に奥行五間の坑あり、約六十年前に石炭を取りしと稱せり。
- 2 大角の鼻燈臺より海岸に沿ひ大泊に至る途中、風の子背附近の海岸に酸化鐵あり。

福田村

- 1 小林省三氏は水鉛鑛を試掘中なり、又同地方に對し金鑛試掘の許可を受けしものあるも未だ採掘に着手せず。 (高商)
- 2 吉田金崎に金を掘りたる跡といふ坑あり。 (福田國)

北浦村

- 1 馬越には石炭を採掘中なり。 (木田農)

大鐸村

- 1 肥土山に「舌着石」と俗稱せらる石出づ。サンチタニウム鑛石なりと。 (高商)
- 2 肥土山部落は赤味を帯びたる幅三十米長さ約三百米の連続せる岩は色著しく異り鐵鑛にあらざるや。 (高商)

3 大字黒岩に石炭を産す。 (高中)

四海村

1 長濱に硅藻土あり、採取中なり。 (高中)

2 小江に金鑛ありと。 (高中)

豊島村

1 蛇東西海岸石炭あり、五十年前に採掘せしも層狭く採算たらず中止せり。 (一中)

2 蛇の山東側に石炭を試掘せし所あり。 (小豆中)

3 櫃石国民学校西山腹に金掘場あり、俗に「ゴーラ」と言はれ冬季降雪あるも雪積まず、之により試掘せしも目的を達せず終れり。 (櫃石國)

4 全国民学校より東海岸近くに赤茶色の水湧出す。 (櫃石國)

綾歌郡

美合村

1 大字中通字東木戸には銅を産す。 (師範)

2 字六地藏に銅(中通鑛山)を産せしも、採算不良にて中止せり。 (高中)

3 中通川東下の間より赤錆色の液出づ。 (師範)

4 川東に約十年前石炭を試掘せしことあり。 (多度津、工)

長炭村

1 北山に硅線石鑛脈あり、現在藤井律太氏金銅鑛を試掘中にして三十間と五十間の坑道あり。 (女子師範)

2 大字炭所字上種子の長谷鑛山は銅を掘りしも採算不能にて廢止せり。 (高中)

3 種子は銅、鉛を試掘中のところ中止せり。 (女子師範)

4 江端より石炭を産出せしもよく燃へざるため中止せり。 (飯山農、多度津工)

5 長炭村大字長尾字浦山より耐火粘土を採取す。 (高中)

6 大字長尾北山に金を産し現在も少しく採掘中なり。 (飯山農)

7 大字炭所東八山には石炭の出る所あり。

8 高尾坊山の金掘場にて明治十五年頃より三十年まで銅鑛を採れりといふ。 (多度津工)

栗熊村

1 高見峯猫山連峯に銅を採掘せし舊坑五ヶ所あり。(内四ヶ所は今も残存し水溜れり、何れも銅の含有量くて廢坑せり。 (栗熊國)

羽床上村

1 大峯鑛山には銅鑛を産す。 (女子師範)

2 高見峯には黄銅を採掘せし跡あり。 (高松市立高女) (坂出實習女)

3 大高見峯東南中腹に金掘場と稱する舊坑あり。 (一中)

4 高見坊山は銅を採りし舊坑二ヶ所残れり。 (高中)

5 高見坊山中腹に鐵鑛を産し、丸龜市某は試掘し現在一ヶ所に直径三米の坑ありて俗に金掘場といへり。 (多度津工)

山田村

1 鞍掛山附近陶村に接して陶土多量に埋藏せり。 (一中)

昭和村

1 字子生子山に砂金を産す。 (高中)

陶村

1 火山に「タングステン鑛」ありと稱せらる、又金鑛もあり。 (高中、女子師範)

端岡村

1 橋川友吉所有の山林には砂金あり。 (高松市高女)

2 新居字川西猪尻山中腹下の池附近に金掘場といふ大坑あり。 (一中)

3 蓮光寺山東側には鐵鑛らしきもの出ず。 (高商)

4 袋山西側にて數十年前金を試掘せしも失敗せり。 (一中)

5 三瀧神社附近には五、六十年前良質の鐵鑛を發見し採掘せしも今はその跡草木繁茂せり。 (多度津工)

6 國分臺置に金掘場といふ坑あり、金銅クローム等を採掘中なりといふ(高中)

松山村

1 青海山中には褐鐵鑛ありと傳ふ。 (女子師範)

2 白峯山には昔より炭鑛の傳説あり。 (坂出工)

王越村

1 金山ヶ崎に舊坑あり。 (女子師範)

川津村

1 城山には褐鐵鑛ありと云ふ。

- 2 黒岩天神より柘榴石少量出づ。 (女子師範)
 3 聖通寺山には「タングステン鑛」ありとの説あり、最近試掘せしも未だ事業化せず。 (坂出工) (坂出中央國)
 4 聖通寺山は昔銀を産せり。 (飯山農、高中)
 5 聖通寺山より鐵を採掘せしことあり。 (多度津工)

坂出町

- 1 金山は昔より産金の傳説あり、又附近より産する銅は殊に金色を呈すと讃岐史要にも産金の記事あり。 (坂出工、多度津工、坂出中央國)

宇多津町

- 1 北浦に金銀銅、モリブデン鑛あり、現在大瀬甚五郎氏試掘中なり。

仲多度郡

十郷村

- 1 宇佐文に金山と云ふ山あり、度々試掘せしも金鑛なかりしといふ。 (師範、多度津工)

善通寺町

- 1 羽間に黒水の井戸ありて黒川近邊には砂金を試掘せり。

吉原村

- 1 雨霧山麓の月照信海兩上人の銅像附近にて明治二十年頃銅を採掘せし由なり (多度津工)

白方村

- 1 東白方見立にて金剛砂を採取せり。 (木田農)

筆岡村

- 1 弘田より石炭を産す。 (女子師範)
 2 彌谷には金銀銅ありといふ。 (女子師範)

多度津町

- 1 多度津津山と白方山の間に砂金あり。

本島村

- 1 本島より「マンガン鑛」少量産するも餘り有望ならず。 (丸龜中)
 2 本島には硅石長石を産す。 (女子師範)

廣島村

- 1 金ヶ崎には鐵鑛を産し、又五島北浦に「タングステン鑛」あり、千島鑛業所

之を採掘す。 (師範)

- 2 手島西浦にて鐵、銅を採掘せしことあり。 (木田農)

與島村

- 1 櫃石島の西側中央部海岸に山迫る所、花崗岩の大塊中に幅二米の黒き層現はる硬度より「タングステン鑛」ならむか。 (櫃石國)

三豊郡

五郷村

- 1 五郷谷温泉より銅鑛出ずといふ。 (女子師範)

萩原村

- 1 金山(岡根山)は昔銅を採掘せし所なりと傳へらる。 (女子師範)

紀伊村

- 1 紀伊村より耐火粘土を産す。 (女子師範)

財田村

- 1 丸谷にて一、二年前石炭を試掘せしも見込なかりしといふ。 (師範)
 2 財田上字宮坂にて度々石炭を採掘せしも不良にて中止せり。 (財田國)

神田村

- 1 神田村より金を産するといふ。 (女子師範)

詫間村

- 1 詫間村にて金銀銅鉛(九七〇萬坪)を土居國一氏により試掘出願中なり。 (女子師範)

- 2 香田附近の海岸には砂鐵を、又財田村宮坂附近には石炭を産せしことありと傳へらる。

莊内村

- 1 紫雲山には金、銅を産す。 (女子師範)
 2 紫雲山中腹に金掘場と稱する所あり、鐵分少く中止せり、又丸山島は一面黒褐色を呈し大正五年頃試掘せしも含有量少くて中止せり。 (大濱國)
 (久米主事作成)

以上の調査に基いて委員は再び第三回の會合を催して内容を吟味し、調査候補地を決定して各委員に割當して、9月10月11月の休業日に調査を完了する様委員は調査に移つた。

以下次項に各委員の調査を數項に分ち記述せんとするものである。調査期間中に蒐集した標本は纏めて高松一中に於て保管して居る。報文中の標番號は該蒐集標本番號に一致する。 (森)

調査地報告書

第一項 稼行中の鑛山

高室村の珪砂

調査月日 昭和16年 8月 5日

位置 三豊郡高室村字當免

地質及産状 新生界第四系沖積層、瀬戸内海に普く分布する花崗岩の風化からなつてゐる砂が有明濱に打上げられ、それが北西の風によつて自然に淘汰せられ、比較的重き石英砂が風積して砂丘を爲したものと認められる。現在採掘せられつゝある区域は約17400坪で層の厚さ、深き所で10m埋藏量約 7萬乃至 8萬立坪、右の外現在作地となつてゐる興昌寺山から九十九山に至る全畑地も表土0.3—0.6m以下の地層は全部殆ど現在採掘されつゝあるものと同質の珪砂層からなつてゐる。

参考事項 目下、坂本、小西合同高室珪砂販賣所によつて採掘され、トラックで観音寺港に更に船で西の宮市山村製塋所に販賣(塋用硝子材料)されてゐる。毎月700—800噸 1噸當り 6圓90錢。(八幡 高瀬)

手島のタングステン鑛

調査月日 昭和16年 8月 4日

位置 仲多度郡廣島村手島

踏破経路 丸龜市福島町備讃商船にて午前 9時出帆、正午手島着。海岸傳ひに甚平鼻を経て島の北部海岸及び山岳部を調査す。

地質及産状 海岸線に沿える所は主として片麻岩又は雲母片岩より成り、その上部は主として花崗岩より成る。鑛脈は現在の鑛區より金ヶ崎方面に向つて走る如く考へらる。

参考事項 現在の採掘坑附近に昔より比重の高い黒味を帯びた鑛物が海岸の砂中に産したものを島民は烏石と稱して注意して居たのが発見の端緒である。島内には試掘した跡が他に數ヶ所存在する。採掘者は今野善市氏で本社は神戸市神戸區海岸通り10番地、事務所並びに選鑛所は丸龜市福島町128番地である。(小松・後谷)

白方村の柘榴石

調査月日 昭和16年 8月16日、10月12日

位置 仲多度郡白方村海岸並びに龜笠島

地質及産状 白方村黒戸山及彌谷山は凝灰岩の上に集塊岩が堆積され、その山麓一帯の海岸は雲母片岩及片麻岩より成る。柘榴石は黒戸山麓の唐戸附近の沿岸一帯の砂中に含まれ、大きさは不規則で一定ならず、波浪の淘汰を受けて結晶の稜角は磨滅して、丸味を帯びて居る。

参考事項 柘榴石を粉碎して研磨材とする際柘榴石中に含有せらるゝチルコンは、硝子研磨の支障を來す故之が含有の有無は柘榴石の品位に重大な關係を有する。

尙白方村海岸一帯及龜笠島は金、銀、銅、亞鉛、硫化鐵、重石等の試掘を出願中で、出願者、兵庫縣三原郡福良町納屋町3108番地清水利一郎氏によれば露頭が龜笠島の南岸に存する由であるが、實地踏査の結果見當らない。

(小松・後谷)

平山のタングステン

調査月日 昭和16年 8月18日、9月10日、11月15日

位置 綾歌郡宇多津町平山

標本 2の(イ) 採掘せる鐵マンガン重石。

2の(ロ) 水洗せる重石、灰重石、タングステンを60%含有す。

2の(ハ) 水洗せる灰重石、全70%含有。

地質及産状 平山一帯は花崗岩地帯で、この花崗岩の風化せる部分に往々黒雲母を多量に伴ふ石英脈を発見する。重石類は此の石英脈の周囲の黒雲母に伴ひ茶褐色又は黒褐色をなして露はれる。而して重石の附近には灰色又は白色をなせる灰重石を多量に産する場合が多い。

参考事項 探鑛者は宇多津町大瀬平氏で現在尙探鑛中で有望なる鑛脈を見出す可能性がある。元來花崗岩中の此の種の鑛石を探す事は容易の業でないが、多數の眼を借りて丹念に探鑛すれば有利な經營が出来る筈で、現在までに蒐集せる總量約30貫、大阪方面へ送れる由である。(豊澤)

長尾の硅線石、蠟石

調査月日 昭和16年 8月22日、10月15日

位置 綾歌郡長炭村長尾字浦山。

標本 1の(イ) 硅線石、1の(ロ)、蠟石。

地質産状 浦山部落一帯は複雑なる地質構造を有するが、現在採掘してゐる地質は花崗流紋岩及び安山岩より成る。鑛石は硅線石及び蠟石で、前者は耐火煉瓦の原料となる。

参考事項 鑛山主は大阪の人北村源平氏で、操業は長炭村、宮本竹三郎氏が主となり、坑道を穿つて採掘に従事してゐる。本鑛山は初め金銀を目的として採掘したが、處々に黄銅鑛の薄層を發見せるのみで、現在は鑛夫も減少して採掘に不便を來して居る。 (豊澤)

牟禮村産白土

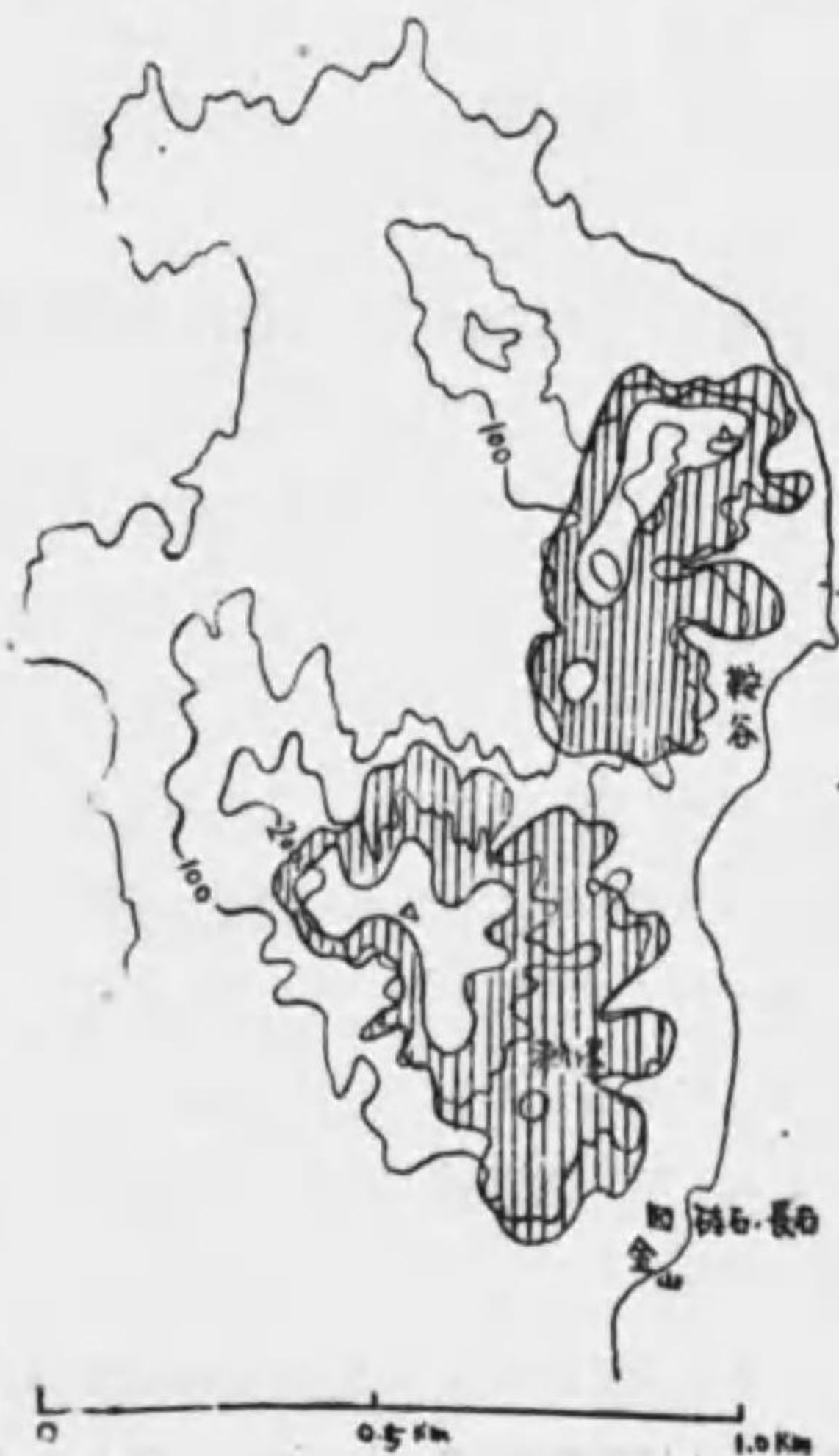
第一圖 牟禮村庵治村の白土分布並びに硅石長石の採掘地

調査月日 昭和16年 8月13日、17日。

位置 木田郡牟禮村源氏ヶ峯附近。 (第一圖)

地質産状 所謂白土と稱せられるものは、商工省地質調査所佐藤理學士の酸性凝灰岩であつて大川郡小田村の白粉石、小豆郡豊島村の白豊島と全一系の岩石で、花崗岩又は内縁岩の基盤の上に略々水平に堆積し、豊島石系の角礫質凝灰岩に蓋はれてゐる。

参考事項 岩質白色、單に凝灰質のものと白色全質の小角礫を含有するものと二種で平均78%の硅酸質を含み角礫質の部分は90%



以上の硅酸を含む。本縣工業試験場の試験によれば耐火度が低く(1200度C)耐火用材としては適しない。現在の主用途はセメント混和劑で實驗によれば、耐久力に於て従來の結果より3倍の耐久力を示すと共に脆性を和けて一層の強靱性を増す特質を有すると共に、粉末は吸着性、脱色性に富む故、軍需工業方面の用途が開かれれば一層有望視されよう。現在源氏ヶ峯附近に於て數個の露頭が採掘されて居るが、庵治村鞍谷方面にも有望な露頭が發見されて居る。源氏ヶ峯附近の觀察より推算すれば厚さ百米を下らず、鞍谷方面の白土は特に海岸に近い一層有望であらう。 (森)

牟禮村の硅石、長石

調査月日 昭和16年 8月17日

位置 木田郡牟禮村金山附近の山林内。

産状地質 閃綠岩内に侵入したペグマタイトの岩脈を採掘するもので、部落北部の小山の頂上に位するポケット状の岩脈で、外觀的に8割以上掘盡され、將來の發展性は認められなかつた。

参考事項 純良なる部分は良質の石英、長石より成るが、大部分は鐵分を含んで赤色を帯び高級品の製造には不向で、且つ産出量も少い。 (森)

雨瀧山及火山の柘榴石

第二圖 雨瀧山及火山に於ける柘榴石採集地及白土採掘地

調査月日 昭和16年 8月23日、10月16日

位置 大川郡津田町雨瀧山及火山

(第二圖)

地質及産状 雨瀧山並びに火山を構成する閃雲安山岩中には柘榴石を含有し、その風化して谷間の凹地に堆積せる土壤中に柘榴石の



含有するのが見られる。採石場は津田町西畑、比與田、神野の三個所並びに富田村宮内に2ヶ所あつて、その中現在採石を行つてゐるものは西畑、神野の二個所である。操業は農閑期に行はれるので作業能率は一定でないが、大凡一ヶ月4—5000貫を採石して東京は送られる。高級板ガラスの研磨並びに航空機製作方面に使用せらるゝ由である。(同)

石井の珪石

調査月日 昭和16年 8月20日

標本 26

位置 大川郡神前村石井

地質及産状 津田町南部の雨瀧山に連なる西方小丘の西側にある。雨瀧山と異り花崗岩より成る小丘で所々にペグマタイトの石英脈長石脈を見る。

参考事項 採掘地は標高90mの地と70mの地と2個所あり、現在前者は掘盡し、後者を採掘する。採掘場は巾100m深さ4mの露天掘にて、鐵分を含み錆色の石英脈と淡紅色の長石脈である。ペグマタイトの岩脈を可なり介在するので、今後も次々と採掘繼續し得るものと思はれる。(坂口)

小田村馬ヶ鼻の白土

調査月日 昭和16年 8月10日

標本 17

位置 大川郡小田村馬ヶ鼻中心の酸性凝灰岩層。(第七圖)

地質及産状 小田村馬ヶ鼻中心の石炭の項にて述べた酸性凝灰岩中の白色細粒質且厚層の部分を探掘するものである。

参考事項 現在野々浦及釜居谷にて採する。野々浦にては標60mの地にて巾30m厚さ6mの岩層の部分露天掘してゐる。此の白土は大阪方面に搬出して主にセメントの混和剤とするのである。(坂口同)

鶴羽村の白土

調査月日 昭和16年 8月23日

位置 大川郡鶴羽村相地(第二圖)

地質及産地 津田町南方火山と稱する山地の東側面、80—90mの所を探掘中

で、操業は昭和16年3月開始したもので、此種酸性凝灰岩は採掘場より上部一帯に廣く分布する。尙火山の北側面にも多量に露出する所がある。大川郡小田村産の白土と全一質である。大阪方面に搬出して、セメントの混和剤となす。(同)

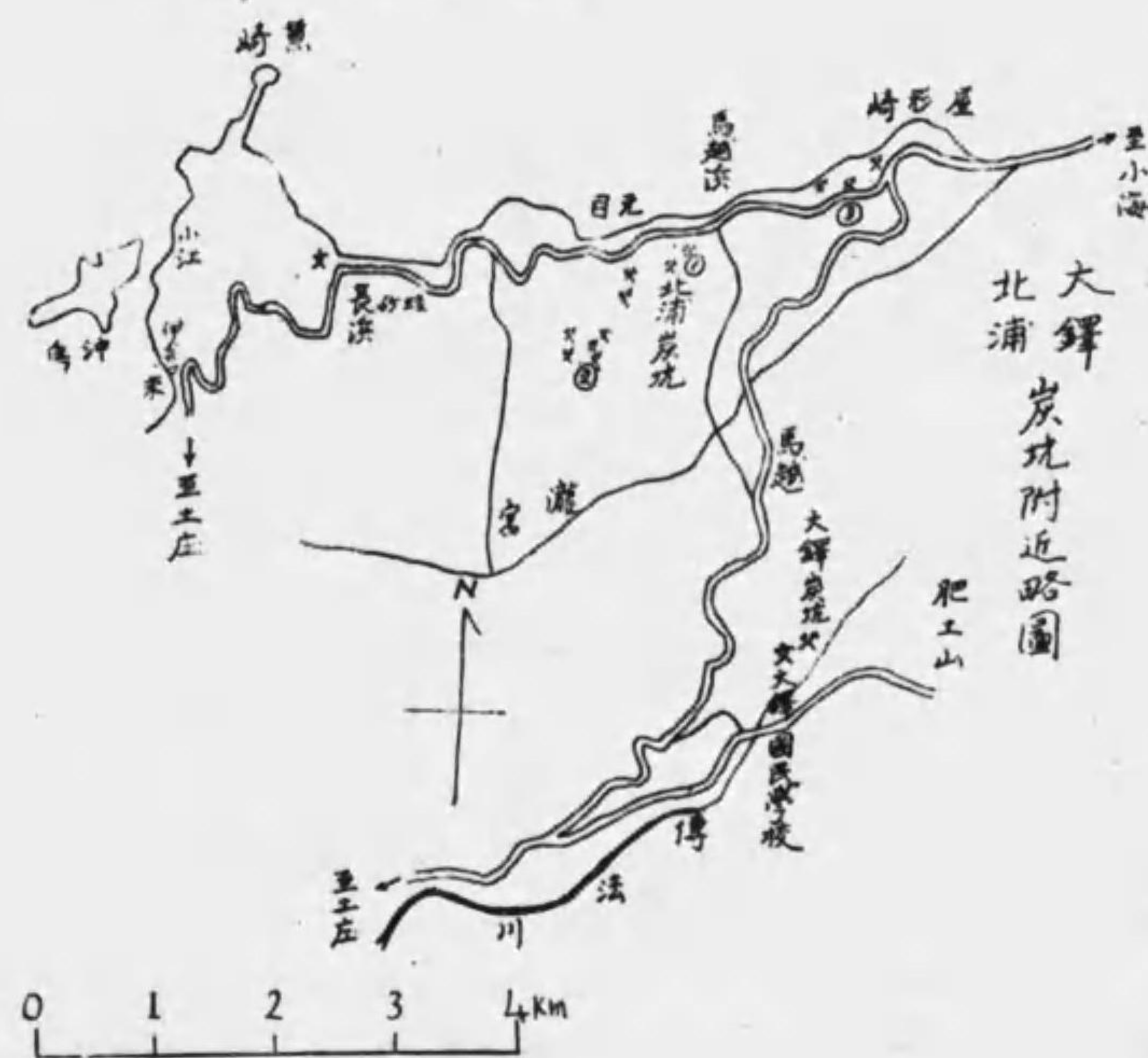
黒川の硫黄泉

調査月日 昭和16年10月12日

位置 大川郡福榮村字黒川

地質 黒川は和泉砂岩より成る山間の部落で小流が部落を東西に流れる。硫黄泉はその小川の南側殆んど川底に近き頁岩層の間に湧出する。湧出量は二ヶ所、一日約2—3石の量で、極めて清澄なる硫黄臭のある冷泉で、湧出量は晴雨にかゝはらず一定である。下流に位する冷泉は青木某宅にて沸して一般公衆の湯治用として古くより經營されてゐる。神経痛、皮膚病、胃腸病、レウマチス、痔疾、喘息等に効ありと稱せられ1年約200人の入湯者が來訪する。(同)

第三圖 大鐸、北浦 略圖



石炭 大鐸炭坑

調査年月日 昭和16年 8月20日

位置 小豆郡大鐸村肥土山字西向 (第三圖)

地質及産状 第三紀層からなり黒岩を中心として傳法川兩岸から大部村元目及び四海村伊喜末海岸に至る三點を結ぶ地域中、中央部を東西に貫く集塊岩地、域の南北に炭層を介在してゐる。即ち現在の大鐸炭坑及び休坑中の馬越濱の炭坑とは其成因同一なるものと認められる。

現在の大鐸炭坑として稼業中の炭層は炭質不良炭層極めて薄く、厚さ5—6寸より1尺内外で現在の坑口から北西に約4度の傾斜を有し採掘當初から40—50年を経過してゐると稱せられてゐる。

参考事項

現況 現在大阪市東區伏見町4丁目30番地に營業所を有する大鐸炭坑は極めて小規模で附近約20萬坪の試掘權を有し、現在までに約15,000坪を掘り、將來2萬坪内外は現在の状態で稼業を繼續する豫定であると稱せられてゐる。

現在坑口から250間の坑道を有するが幅4尺高さ4、5尺程度で常時坑夫45名内外を使用、一日採炭量約1萬斤内外である。

炭質及用途

一例 水分、揮發物、固定炭素、灰分、硫黄、發熱量。

13.61% 37.47% 30.58% 18.33% 1.46% 4074カロリー—

炭質不良で島内には餘り利用されず、主として大阪方面に送り他の石炭と混じり風呂焚用として使用されるに過ぎない。

〔附記〕發掘の年 明治35年 8月

産出 昭和15年々産 2000噸

〔沿革〕 1. 試掘當時の坑主、佐伯熊二郎、大田廣太郎、三木福松

2. 明治38年(苗羽) 木下榮十郎

3. 大正2年(神戸) 中島武三 當時大鐸炭坑株式會社

4. 大正6年(神戸) 萬俣兵太郎

5. 昭和13年(西宮) 馬淵政太郎現在に至る。

6. 現在大鐸炭坑事務所主任佐伯關太郎 (中村・松尾)

石炭 北浦炭坑(舊炭坑)

調査年月日 昭和16年10月 5日

位置 小豆郡北浦村馬越濱及元目

地質及産状 前記大鐸炭層の延長と認められるが、層は南西に走り6尺につき3寸位の傾斜を有してゐる。嘗ては炭層2尺7—8寸に及んだ事があるが現在は甚だ薄く3寸内至7—8寸位である。

参考事項

天保13年9月備前の人より馬越炭坑を岡上銀右衛門氏(現在高松市八番町の岡上亮平氏の先々代)買取り引續き採掘多量の出炭があつたが現在は廢坑となつてゐる。

大正10年—昭和5年迄の産出量 6378噸30.908圓

二鑛區から成り何れも上層に2寸位の炭層と二層になる。

1. 岡山電氣軌道會社所有一馬越濱海岸から採掘し、600間の坑道で斷層に達する。鑛區154,000坪約1.1尺の炭層からなり良質のものを産したが、水力發電に変更したので約20年前に採掘を停止し現在に及んで居る。

2. 京都木村晋五郎、大阪坂上徳次郎兩氏の出資で元目にある。

鑛區 29萬坪炭層1.6尺と稱する坑道 220間で斷層に會ひ東に折れる。昭和14年から始め同15年10月まで採掘し、現在資金難により中止した。

尙元目海岸に僅かに炭層の露頭が現はれる。其の他海岸線に沿ひ試掘坑多數ある。以上の炭層は恐らく一枚(外に上層に一枚の天井炭と稱する薄層がある)の層で大鐸炭坑の續きであるが、途中大斷層があつて中斷せられたらしく炭質は大鐸炭より稍劣れる様である。

〔附記〕略圖中①は北浦炭坑 ②は元目炭 ③は屋形崎の人港吉治氏の試掘後廢坑となつたもので、五噸内外を採掘の上見込が無いため中止したものである。(中村・松尾)

チタン鐵鑛

調査年月日 昭和16年 8月20日

位置 苗羽村田の浦半島沿岸一帯から坂手村附近及大角崎に至る間で、特に多量に産し現在稼業中の地は堀越田(内海灣に面する地域)間の切谷より三角(田浦)に至る約2軒の間である。

地質及産状 本半島は殆んど閃綠岩より形成され花崗岩露出附近には本砂産せず、従つて酸化チタニウムを含む鐵砂は閃綠岩の風化分解した物が流出し沿岸に堆積したものと考へらる。右砂鐵の所在は干潮線より海岸を離れる水深20

米位迄の間に於いて水底約1米位の所に最も多く含まれる。

参考事項

(イ)沿革 今から約十年前元鑛山技師の林、中島某氏の発見したものであるが、其のまゝ放任状態となり昭和13年10月大阪イルミナイト工業株式會社の手で稼業を開始して現在に至るものである。

(ロ)品位産出量 沿岸の砂泥中より約一割の精鑛を生じ酸化チタニウムとして約五〇%を含む。粒別分析は120—160メッシュのもの約60%之を大阪土佐堀の大阪イルミナイト工業事務所で200メッシュ以上の製品とする。現在一日約500疋内外の精鑛を産出しつゝある。

(ハ)採取情況 現在約50噸の和船に15馬力の石油發動機を設備しZ式壓力ポンプ及びナショナル式ポンプに據り砂鐵を含む砂泥を六吋管によつて吸揚げ、之を堀越工場まで船で運搬し、此處でゼームス式テーブルで海水淘汰をなし最後に淡水洗をして乾燥する。

(ニ)用途 電氣熔接棒の被覆劑としてとして海軍艦船方面に使用され、一部は人絹製造塗料等にも利用されるが、大部分は軍需方面に消費される。

〔附記〕大阪イルミナイト工業株式會社 堀越工場主任 清水辰次

(中村・松尾)

モリブデン鑛

調査年月日 昭和16年8月21日

位置 福田村水晶山南側山麓字平間

地質及産狀 花崗岩の山塊からなり花崗岩の風化せる水晶山の頂上より約3丁位の中腹にある石英脈中に輝水鉛鑛を點在し、場所によりポケット状に發達する所があるが多量でない。

参考事項 昭和11年福田村高尾高政(現在同所主仕)氏の発見により最初金銀採掘の豫定で平間地域300万坪の試掘願を出し、更に165,000坪を追加出願試掘したが、資金關係より2ヶ年間休業し、再び就業して現在に至り其の間水鉛(純粹)約40貫を採取した。

全所の輝銀鑛の撈けには金1000000万分の4—5%を含有する由。試掘當初のものは現在新設の縣道下方に約6間の坑道を掘つたが現在は縣道上部の谷間を露天で採掘しつゝある。今後は其の場所から坑内掘で進む豫定であると謂ふ。

現在松本輝三氏を社長とし大阪濱寺町にある興亞天産研究所の手で稼業中である。本年10月からは新潟縣中蒲原郡上杉及び兵庫縣延平寺にある全所モリブデン鑛山から人夫を増員し更に工事を進行さす豫定であると聞いた。鑛脈は大

體南北に約10度の傾斜を有してゐる。現在は石工5名内外選鑛人夫數人で極めて小規模の試掘程度である。

(中村・松尾)

砂、木節、蛙目

調査年月日 昭和16年8月29日

位置 大豊島唐櫃(土庄より海上約40分)

地質及産狀 唐櫃海岸から南西約5—6町の丘陵地で、凝灰質砂岩層(露頭顯著)である。現在採掘稼業中の所は山頂から40尺内外で200尺以上は本地層からなり分布1000坪以上に達するが、現在着手中の處は200坪位である。尙附近にも同質の地層を有する所2—3ヶ所あり、硅砂は全面的に分布し、蛙目と稱する部分は石英砂の粒子稍大に揃つた部分を謂ひ、木節は大體蛙目の上部に青土に續いて分布してゐる。

参考事項

(イ)産出量 硅砂月産300噸内外 蛙目1000噸内外、木節400—500噸。

(ロ)經營者 三金興業株式會社 工場長大儀淺男 本社大阪市北區中ノ島4丁目2。

〔附記〕尙硅砂採集精製後に残留する白色粘土に就いては現在利用の道なく陶土代用として利用する事を考究中であるが、石英の粒子を混ずるため800度以上の高温に耐へず瓦(白色)其他につき低温陶器材料として考究中である。現在噸6個内外で現場渡して需用者あれば賣却する方有利であると云つてゐる。

(中村・松尾)

長濱の硅砂

調査年月日 昭和16年10月5日

位置 四海村長濱海岸

土庄港から海上約20分で小江に至り徒歩約3軒で峠を越えて海岸に達する。地質及産狀 附近一帯第三紀層に屬し凝灰質砂岩の粗粒を多く含む。(石英質)豊島唐櫃産に類するが陶土質少く珪質多く一般に粒子粗である。

現在海岸から約一軒距てた山地から採掘し海岸に運び之を篩分けて搬出する。主として硝子原料珪砂としてゐる。現在3ヶ所の採取場あり比較的良質のものを採取し全所で篩別水洗して粉碎器を有する工場は左記富田商店經營のもので其の他の物は篩別したるまゝで送出す。

大阪市北區綿屋町21番地 富田純輔經營

(中村・松尾)

第二項

試掘中にして稍々有望な鑛區、最近まで稼行され中止し居る鑛山で開發の見込ありと考へられるもの、並びに委員にて有望と判定した鑛區。

第四圖 詫間村の金、銀、附、砂金、砂白金、砂錫

詫間村の金銀鑛附砂金、砂白金、砂錫

調査月日 昭和16年10月11日

位置 三豊郡詫間村高谷岬一帯（神田、田井、本村、須田、新濱、鹽生大谷、高谷、戸崎、コマジリ、高谷鼻の小字を含む區域）

最も著しい露頭は鹽生山の西詫間灣に面する満潮線附近に數條認められる。

(第四圖)

地質及産狀 鹽生山を主とする高谷岬一帯は主として花崗岩からなり、その中に狭きは50Cmから廣きは9mに及ぶ10數條の雲母片岩の岩脈があり、この岩脈中更に石英脈が夾在してゐる。

この雲母片岩及石英脈中に微量ながら金及銀を含む。露頭は鹽生山の西側にあり。この岩脈は一方鹽生山に他方深く詫間灣の海底に向つて延びてゐる。

参考事項 右區域 97万坪は目下土居國一氏試掘權を有し、全氏から造幣局及日室鑛業株式會社に委嘱して分析した結果は次の通りである。



試分報第1019號分析報告書 (寫)

試料鑛石 第一號 100分中金0.00001 (髓中0.1瓦)

第二號 100分中金0.00001 (髓中0.1瓦)

第三號 100分中金0.00002 (髓中0.2瓦)

右證明す。

造幣局長 安度明道

日室鑛業株式會社分析報告書 (寫)

石英塊 第一號 { 金0.00005
銀0.00002

第二號 { 金0.00001
銀0.00002

第三號 { 金0.00002
銀0.00004

第四號 { 金0.00002
銀0.00003

砂狀質 (雲母片岩の粉碎せるもの)

第五號 { 金0.00009
銀0.00014

第六號 { 金0.00018
銀0.00022

(2) 鑛山監督局中野技師の談。鑛石 1髓に對し金 10瓦位含有しなければ企業化困難、近くに精鍊所を有するも4-5瓦程度の品位ならば收支償はざるもの故、詫間のものも今の所では見込の少いものであると。(3) 最近高谷岬東、干潮線下の砂中から砂金、砂白金、砂錫の産出があるとて試掘願出(土監居國一氏)したる由であるが未だ其の鑛床價值不詳である。(八幡・高瀬)

第五圖

高室、仁尾町界から比地二村に亘る白色凝灰岩

調査月日 昭和16年 8月 5日

位置 高室村の珪砂産地から觀音寺、仁尾町街道沿ひに室本を経て仁尾町に至る途中、高室村と仁尾町との境に幅約500mの白色凝灰岩がある。

(第五圖)

地質及産狀 七寶山臺の基岩は花崗岩で其の上に複輝石安山岩及讃岐式安山岩を以て被覆され、更に其の上を凝灰及集塊岩を被る部分が多い。

参考事項 從來暖熱煉瓦は珪藻土を材料として作られたが、本縣には珪藻土の産出殆どみるべきものない爲め、



これが代用品として讃岐煉瓦会社にあつては前記白色凝灰岩を利用せむとの企
畫がある由、但し目下資材の入手困難な爲め未だ工業化せられるに至らない。

(八幡・高瀬)

辻村の珪砂及陶土

調査月日 昭和16年8月14日

位置 三豊郡辻村字高太(小松尾寺の南東一軒)

地質及産状 和泉砂岩系に屬し、高太山の東西兩側に露出する部分がある。
露出する砂層の厚さ約2米に達する。

参考事項 同村鑄物師、原磯吉氏の経験によれば同村大辻附近の粘土に珪砂
約2割を混じりて作れば其の耐火度は30番の耐火煉火より高い。従つて耐火煉
瓦摺鉢用の陶器硝子等として利用性あるものと考へられる。(八幡・高瀬)

廣島の珪石、長石、タングステン

調査月日 昭和16年8月5日

位置 仲多度郡廣島村茂浦東山頂

踏破経路 手島港午前9時出帆、茂浦着午前6時30分

地質及産状 廣島の山地は花崗岩より成り、江ノ浦より釜越までの海岸は片
麻岩より成る。珪石、長石は茂浦東山頂にて採掘せられてゐるが、目下操業中
止、珪砂は江ノ浦海岸一帯に産するが之も採砂は休止中である。(小松・猿谷)

安原産陶石

調査月日 昭和16年8月23日

位置 香川郡上西村内場

地質産状 内場の北方、標高447米の高地で殆んど陶石より成ると稱しても
過言でない。高地の北部は花崗閃綠岩に接し、南部は頁岩に圍はれ、岩質は白
色小角礫を含み固き凝灰質の塊をなすもので氷上村産岳上のものに酷似する。

参考事項 昭和十二年に新聞紙上で有望なる陶石として報導せられたが、其
の後何等採掘されてゐない。肉眼観察のみで品質は不明であるが、避遠の地な
るため未だ一般事業者の手が伸びぬためであらう。(森)

岳山の陶石

調査月日 昭和16年8月25日

位置 木田郡氷上村

地質産状 岩質並びに産状は安原上西村の陶石と全然同一である。

参考事項 昭和初年まで採掘したと稱せられ、山の南斜面に大規模な採掘の
跡が残つてゐる。(森)

天王のアンチモン 金銀錫鑛

調査月日 昭和16年8月12日 29日

標本 23

位置 大川郡石田村天王有馬清平氏宅裏山天王山 (第六圖)

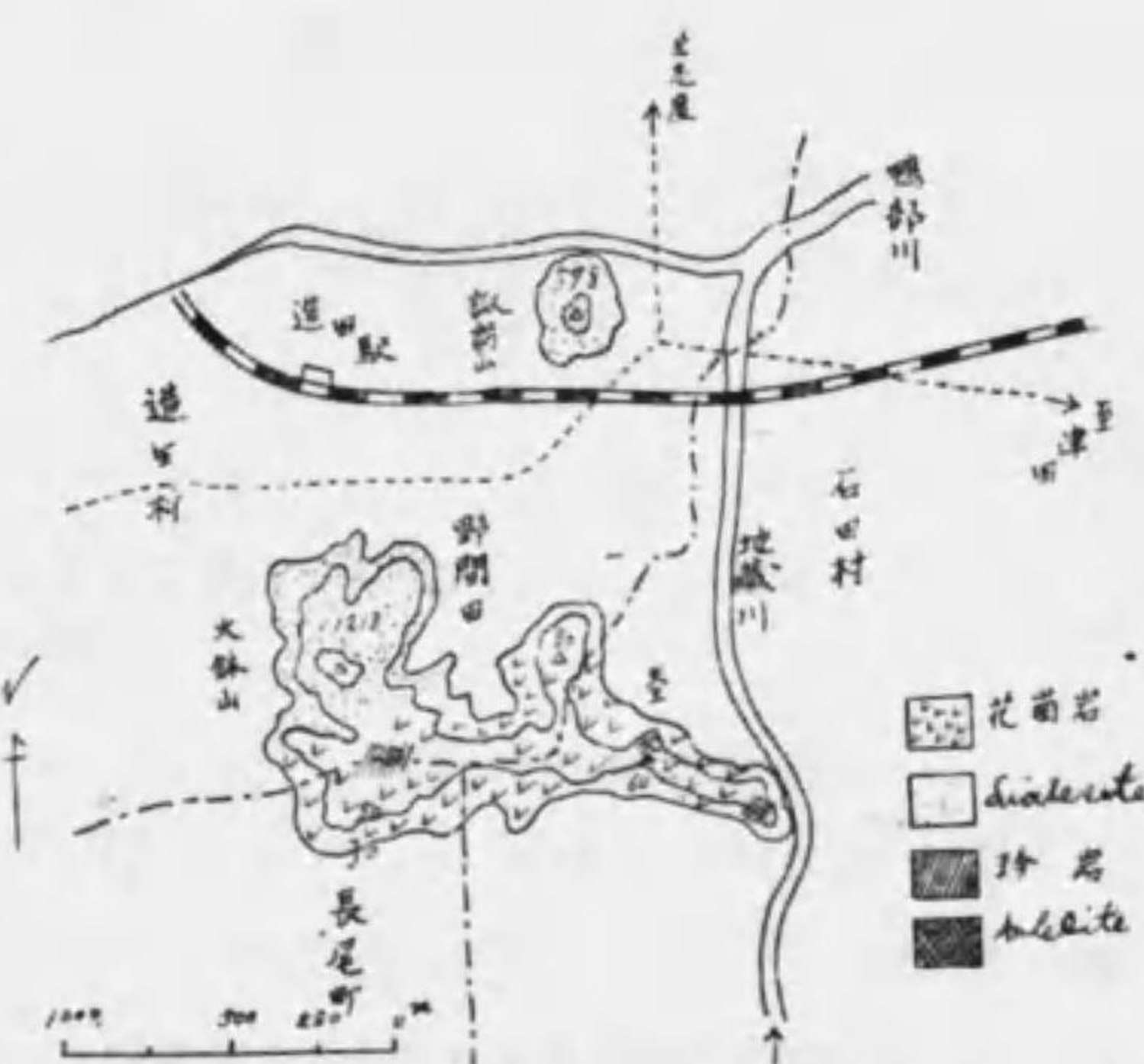
地質及産状 天王山は標高60m、花崗岩を母岩とするが東南山麓には安山岩
の露出を見る。此の山頂の北側に閃綠岩脈の露出があり、之に沿つて鑛脈は巾
2cmより1mの巾に樹枝状に現はれる。走向一般にS25度EのものS80度Eとの

第六圖 天王のアンチモン金、銀、錫、鑛

間にあり、傾斜は東へ
20度下るものが多い。

恐らく鑛脈は下方よ
り露頭に向つて噴出し
たものと考へられる。

参考事項 石田村長
有馬清平氏及木田郡川
島町秋山春次氏(水原
氏試掘當時の現場監督
者)高松市花園町水原
病院長(試掘者水原氏



の長男)の談等綜合して推量すれば、舊幕時代試掘し、續いて明治40年頃大川郡
富田村陶山病院長砒鑛として試掘し、更に木田郡川島町水原病院長は昭和10年
8月より全12月末まで毎日石工4人位にて試掘した。當時坑道は略垂直に30m

のもの、外 9m 四方深さ 3m の露天掘も行ひ、鑛山局数回の分析の結果、金、アンチモニーに富み、銀、錫も相當含み、賣却鑛石はアンチモニー鑛として大阪アンチモニー社へ搬出する裡、試掘權を全會社へ賣却し、其の後休坑してゐる。
以上の外黄鐵鑛も肉眼的に見られ、優良なる鑛石を出したが、鑛區余りに小なるため採掘を中止しものと思はれる。
(坂口)

高津濱の硅砂

調査月日 昭和16年 8月10日

標本 19

位置 大川郡小田村高津濱 (第七圖)

地質及産狀 高津の濱は巾10m長さ 500mにして、此の砂質全部硅砂よりなる。成因は南方花崗岩の風化物に非ずして大潮の際潮流により押寄するものの如くである。

第七圖 高津濱附近の地質圖

参考事項 硅砂は酸化鐵のため銹色を帯び、良質ではないが採取容易なる故有望と思はれる。但し漁業問題の起る懸念ある故、採集するも又押寄するやを否や

を、一部試みに採集して其の結果により實際に着手する必要ありと考へらる。

(坂口・岡)

長濱ヒヨジの硅石

調査月日 昭和16年 9 23日

標本 39

位置 大川郡鴨庄村長濱ヒヨジ日盛山西南麓。

地質及産狀 前述金場跡より北方50mの石英脈で走向S15°-70°Eにして、南に10傾き巾 5mあり、露頭を採掘してゐるのは標高30mの地である。

参考事項 品位中位、埋藏量は豊富なる見込であるが現在中止してゐる。(坂口)

助光の三本松峠の硅砂

調査月日、昭和16年 8月 7日、8日

標本 38

位置 大川郡多和村助光の三本松峠の東側 (第十圖)

地質及産狀 比較的硅質の多い和泉砂岩の風化崩壊物から形成され、峠の道路に添ひ約 150mの間に帯狀に分布する。

参考事項 優秀なる硅砂とは云ひ難いけれども、埋藏豊富にして採掘甚だ容易なる點が特徴である。
(坂口)

上末國の硅石

調査月日 昭和19年 8月22日

位置 大川郡福榮村字上末國

地質及産狀 此の地域は花崗岩と和泉砂岩の接觸地帯で、硅石は花崗岩地帯に産する。露頭は標高 397mの山頂の南側斜面に露出する。石英に薔薇長石を混する譽水村の硅石と同質のペグマタイト狀をなして居る。數年前迄採掘して縣外へ移出したが現在は中止して居る。尙之が運搬のため山頂まで多額の經費を投じて道路を設けた。現存する採掘面の大きさ、幅約10m高さ 5m、略々南より北に向つて山頂を貫いてゐる。埋藏量は相當に豊富であるが、高き山頂の上、避地に存するため、その運搬に多額の經費を要し操業には障害多きものと考へられる。
(岡)

諏訪山の陶石

調査月日 昭和16年 8月26日

標本 30

位置 大川郡造田村乙諏訪山 (第六圖)

地質及産狀 諏訪山は標高58.8mの小山で全山ライオデサイトよりなる。ライオデサイトの走向 S30°W 相當風化せる陶土で覆はれたる部分もある。

参考事項 金掘場ありと傳ふる頂上の坑は調査の結果、人工的にコンクリートと岩石にて造れる横穴である。併し全山ライオデサイトから成り陶土陶石として利用すれば質量共に有望で搬出も亦便であると考へられる。
(坂口)

丸山の陶土陶石

調査月日 昭和16年 8月19日

標本 27, 28, 29

位置 大川郡富田村奥筒野丸山及裏山

地質及産状 丸山は標高120m、全山ライオデサイトよりなり、走向S 52° E 傾斜なく殆ど垂直である。山體が圓錐形であるので丸山と呼ぶ。裏山も全山ライオデサイトよりなるけれども風化著しく丘陵状をなす。

参考事項 裏山の陶土は古く古理平焼以來用ひられて、優良な陶器を製せられて名聲があり、丸山家で代々前記風化せる最上層の植物根の浸入せる部を除き此の下層を採掘し、此の原土を水中にて濾過沈澱して陶土を精製してゐる。陶石は丸山の東側標高80mの地にて、巾10m高さ20mの露天掘をなし、之を主原料として富田焼を焼いたが經營難のため中絶してゐる。砂鐵は丸山の西麓でライオデサイトの風化せる中に標本的に産する。陶土陶石の埋藏量は共に豊富であるが陶石の品位は中位であらう。(坂口)

野間田大鉢山の陶石、砥石

調査月日 昭和16年 8月12日

標本 23

位置 大川郡造田村野間田大鉢山 (第六圖)

地質及産状 大鉢山は標高121.8m全山ライオデサイトよりなり走向S30° Wである。舊坑は頂上近くの西側の標高120mの位置で、巾15m深さ3mの露天を行つたが、目下廢坑となつて居る。

参考事項 從來砥石として相當採掘されたと傳へられ、岩質は陶土として又細砥として用ふ可く、埋藏豊富、搬出も便利であると考へられる。(坂口)

力石の陶石

調査月日 昭和16年 8月 8日

標本 4

位置 大川郡多和村力石

(第十圖)

地質及産状 力石に分布するライオデサイトの丘状の小山で全山陶石を採掘し得る。

参考事項 採掘量用途等詳細不明なるも丘状の各所にて露天掘を行ひたる舊坑があり、最近坑道を穿つてゐる。鑛石は酸化鐵の銹色少なく陶石として良質と思はれ、埋藏量も豊富であるが搬出に不便な欠點を有する。(坂口)

福田村の銅鑛

調査年月日 昭和16年 8月28日

位置 禮田村大字金ヶ崎及藤崎

地質及産状 福田村北東海岸に突出してゐる半島状の地で、半島部中央は潮をなし干潮時には徒歩で渡る事が出来るが、満潮時は船によらなければ先端金ヶ崎に行く事が出来ない。全地域花崗岩から成り石英脈が発達する。古來金採掘場として知られ北側海岸に幅4尺高さ5尺奥行約6間の坑を掘つた跡がある。坑口の周圍一帯に褐色の燒けを生じ酸化鐵を含む地下水は坑の内外に滲出してゐる。坑内には多少綠色を帯びた綠青を岩面に附着し銅分の反應を見るが被膜薄く岩石破面には黄銅鑛又は黄鐵鑛の外見を有する部分を認めない。試掘當時に於て見込無いものとして放棄し現在に至るもので右鑛脈?の方向は稍北より南西に走り反對側の海岸(福田側)に貫き海岸中腹山腹にも同様赤褐色の燒けを生じてゐる。

之は福田港より(約一里内外)肉眼で認める事が出来る。

同所から北東海上約3里兵庫縣飾磨郡家島附近のカナコ島に通ずるものでもありとも稱せられてゐる。カナコ島をらは黄銅鑛及黄鐵鑛を含有する鑛石が試掘せられる。

尙金ヶ崎に至る潮の對岸北方藤崎の舊坑間前記に類し燒けは東方に露出し之から西に通じてゐる舊坑は前所より小さく周圍4尺奥行約15間内外あつて、綠色の被膜は金ヶ崎のものより厚く更に多いが、坑壁の岩石中には金屬光澤を有する破面を發見する事が出来ない。坑口周圍一帯の酸化鐵の量は前記の場所より更に廣範である。之等二ヶ所は何れも多少の銅分を含有するが寧ろ鐵分を比較的多く含む程度であると思はれる。

何れも今から60—70年前に試掘し歐洲大戰後の好況時代に一時手をつけ更に放棄し今日に及んで居る。

〔附記〕 全所の踏査には吉田村巡航船扱店石松氏の渡船を利用するがよい。

(中村・松尾)

第三項

曾つて試掘を行ひ稼行の望なしと考へられるもの及び貧瘠にして稼行に堪へずと判定せられたもの將來研究を要するもの。

大谷の石炭

調査月日 昭和16年 8月26日

位置 三豊郡仁尾町大谷

地質及産狀 大谷附近は凝灰岩より成り、石炭を夾藏し今より約30年前には相當品質良好なる石炭を産出したらしいが、現今では其の坑口も土砂の爲埋没し盡し、坑口附近に昔の炭層の面影を一部止めるに過ぎず、調査の際少量の亞炭を採掘したのみであつた、
(小松・後谷)

財田村の石炭

調査月日 昭和16年10月12日

位置 三豊郡財田村 (1) 宮坂の掘割り附近 (2) 本篠

地質及産狀 前記宮坂及本篠は洪積層で砂層粘土層の互層からなり、其の中に極めて粗悪なる石炭層を夾在する。宮坂に於ける昭和14年末から15年初頭にかけて試掘、又本篠にあつては數年來(最近では昨15年夏)屢々試掘したが何れも炭値粗悪なると其の量の少ない爲現在に於ては斷念してゐる様である。
(八幡・高瀬)

仁尾町の石炭

調査月日 昭和16年10月11日 12日

位置 三豊郡仁尾町字大谷(江尻川口より南草木部落を経て里道沿ひに丸山池、大谷池、上池を経て廣江部落に至る山の中腹)

地質及産狀 大正の初期(27.8年前)石炭の試掘をしたと稱する場所があり現在殆んど埋れてはゐるが尙坑道の痕跡はある。この附近一帯は凝灰岩から成り、局部的には亞炭様のもの夾在するが企業化し得る程度のもではない。
(八幡・高瀬)

紀伊村の所謂石炭層と稱するもの

調査月日 昭和16年 8月14日

位置 三豊郡紀伊村字丸井、雨の宮境内(丸井から池の内部落に至る道路沿ひ、雨の宮から南東約70米)

地質及産狀 砂岩と互層をなして上下二層、黑色粘土様の層がある。上層の巾約8cm、下層の巾約15cm。

参考事項 (1) 前記黑色粘土様のものを試験管に乾溜しても石炭瓦斯の發生は見られない。(2) 鹽素酸加里及炭酸加里との中に熔融しても綠塊が出来ない。(3) 鹽素酸加里と混じて熱すると火花を出して燃える。以上三實見の結果石炭ではなくて多少石墨を含む粘土層と認められる。而も其の産出少量で實用價值はない。
(八幡・高瀬)

詫間村の砂鐵

調査月日 昭和16年10月11日

位置 三豊郡詫間村 1. 高谷岬東海岸戸崎附近 2. 同西海岸 3. 香田の海岸。

地質及産狀 前記三ヶ所共花崗岩と閃綠岩とが混在する。尙栗嶋村の阿島、吉津村の山條山等砂鐵の産地も皆閃綠岩が存する。即ち前記砂鐵は閃綠岩の風化せるものが自然に風雨、波浪の淘汰によつて或は波打際附近に、或は田圃の溝等に集積したものであらう。但し其の量は少ない。
(八幡・高瀬)

栗島の砂鐵

調査月日 昭和16年 8月24日 11月 6日

位置 三豊郡栗島村阿島北岸

地質及産狀 阿島は花崗岩並びに閃綠岩よりなり、砂鐵を産するのは島の北岸で、斷崖の下巾廣き處は 6m、狭き處で 2m、海岸に沿つて長さ約 20mの間の砂濱中に砂鐵の厚さ約10cmの薄層を産する。

参考事項 島民は古來之を黑砂と稱して、床の壁土に混入して實用した。現在佐藤豐藏氏が試掘中であるが量少なき爲利用價值は少いものと考へられる。
(八幡・高瀬)

紀伊村の褐鐵礦

調査月日 昭和16年10月26日

位置 三豊郡紀伊村字福田原(陸軍廠舎の北約 100米額懸神社の裏)

地質及産状 和泉砂岩層の間に夾在、規模小で鑛床としての見込がない。

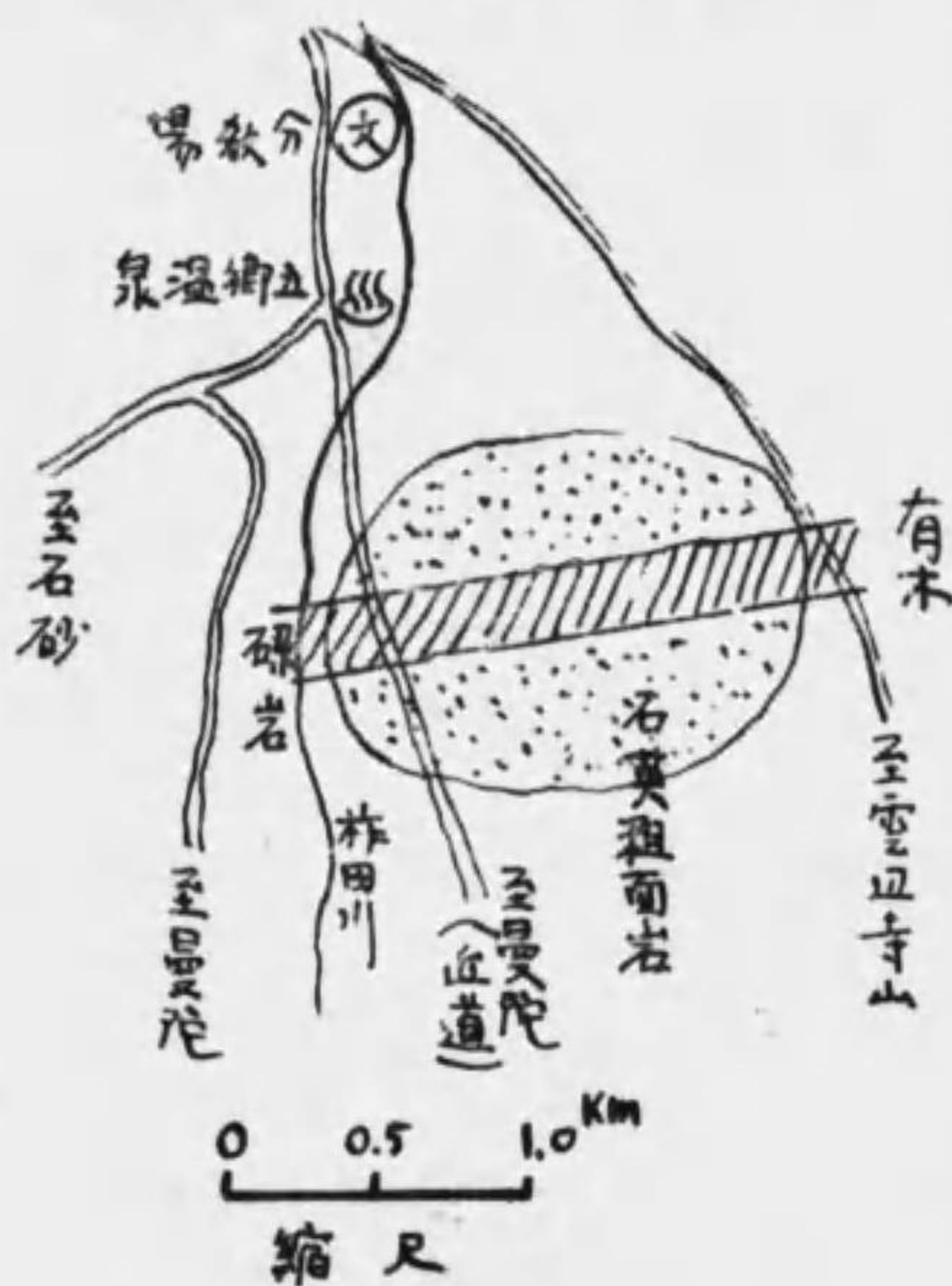
(八幡・高瀬)

五郷村の銅

調査月日 昭和16年10月26日

位置 三豊郡五郷村字海老濟(五郷溪温泉場から曼陀峯に至る近道を南に約500m海老濟部落の南端から右へ50m下れば溪谷に礫岩の露出する部分がある)

第八圖 五郷村の銅鑛の産地



地質及産状 井關以南、五郷は村全域上部白亜紀に屬し、砂岩、礫岩頁岩の互層からなる。前記海老濟附近亦頁岩と礫岩の互層でその中へ石英粗面岩の岩株の貫入がある。其の接觸部附近の岩礫中に縞状を成して含銅硫化鐵鑛が認められる。尙前記礫岩層は走向略東西海老濟から有木部落に至る) 傾斜11°北。

参考事項 現在の所鑛石の存在極めて微量で鑛床としての價値を認められない。

(八幡・高瀬)

十輪寺山の白粘土

調査月日 昭和16年8月14日

位置 三豊郡紀伊村字丸井十輪寺山

地質及産状 現地は和泉砂岩系に屬し、全丘陵の南東麓、代の池々畔から約15度の傾斜を以て北西に走る一層をなし十輪寺山の中腹から全丘陵の北西側に現れてゐる。層の厚さ約50cm、極めて粘性に富む美しい白色粘土であるが其の

量多くない。殊に大部分深く砂礫層の中に介在する爲採掘も容易でない。工業化の價値は乏しいものと認められる。

参考事項 (1) 十輪寺山の粘土と凡同質の粘土は同村雨の宮境内、及同村陸軍用地内にも所々に見られる。何れも産出の規模は小さい。(2) 雨の宮境内にこの粘土が自然に水浸しられたものが沈積した所があり、粘土細工等には好適のものであるが、これも亦量が多くない。

(八幡・高瀬)

曼余羅寺の石炭

調査月日 昭和16年10月25日

位置 仲多度郡吉原村曼余羅寺

地質及産状 吉原村曼余羅寺西方に小池あり、池より上る事約100mの地點の谷間に採掘の跡がある。母岩は凝灰岩で坑の奥行約5m、尙一個の坑は土砂の爲め全く埋没する。約80年前に資金約2000圓を投資して採掘を始めたる由であるが、調査の際は少量の亞炭を採掘したのみであつた。

(小松・猿谷)

十郷村の含鐵鑛物

調査月日 昭和16年8月19日

位置 仲多度郡十郷村大字佐文

地質及産状 該地域は花崗岩を以て構成せられ、上部に凝灰岩を伴ふ所がある。古く採掘したと云ふ坑口があり、その岩石中に極く微量の黃鐵鑛並びに含鐵鑛物を含有するが利用價値は全くない。

(小松・猿谷)

多度津山、東白方の砂鐵

調査月日 昭和19年10月12日

位置 仲多度郡多度津山及び東白方

地質及産状 全地域は花崗岩及び閃綠岩より成り砂鐵の露出する處は、東白方並びに多度津山の狭き道路に細長く帶狀を成してゐる。尙其の附近より多度津山に面する側の砂利層の中にも極めて薄き層を介在するがその量は極めて微量である。

(小松・猿谷)

本島の銅鑛、長石

調査月日 昭和16年 8月13日

位置 仲多度郡本島村甲生、小坂、大澤、福田、尻濱、観音寺山。

地質及産状 本島は主として花崗岩から構成せられるが、海岸線に沿うて、處々に片麻岩が露出する。福田の北海岸に昔、銅鑛を採掘したと傳へられる舊坑があるが、調査の結果銅鑛を發見する事は出来なかつた。又福田の南方丘陵地より長石を採掘し鉛の代用として使用せらる。(小松・猿谷)

志々島の石灰岩

調査月日 昭和16年10月 5日

位置 仲多度郡粟島村志々島

地質及産状 志々島は雲母片岩より構成せらるゝ小島で、古く島の山頂にある石灰岩を採掘して石灰を焼いたと云ふ釜跡が島の南岸に 2箇所残存する。現在山頂の該場所は開墾して畑地となり、島の南岸に石灰岩の捨石が遺棄せられて居るのみである。(小松・猿谷)

江畑の石炭

調査月日 昭和16年 8月23日

位置 綾歌郡長炭村字江畑

地質及産状 約30年前石炭の採掘を成せる山であるが全然見込ない鑛山である。(小松・猿谷)

聖通寺山の鐵鑛

調査月日 昭和16年 8月19日

位置 綾歌郡宇多津町の東方聖通寺山

地質及産状 聖通寺山の北端に最近試掘したと云ふ跡は雲母を多量に含む花崗岩中を穿つたもので、微量の鐵分を含み且つ坑内に溜れる水は青味を帯びて銅の含有する疑ひを存するが、實用的價値は全くない。(小松・猿谷)

上羽床、種子の金山

調査月日 昭和16年 8月20日 9月15日

位置 綾歌郡上羽床村及長炭村の村境

地質及産状 本地域は閃綠岩並びに安山岩より成り極く稀に黃銅鑛の薄層を存するのみである。又頂上に露出する石英粗面岩の風化せしものは良好なる石粉として用ふべきものがある。金山としては價値がない。(小松・猿谷)

北浦の螢石、水鉛

調査月日 昭和16年 8月17日 9月9日 10月1日

位置 綾歌郡宇多津町北浦

標本 3. 花崗片麻岩中の螢石

地質及産状 宇多津町北浦附近は花崗岩より成り處々にペグマタイト及び片麻岩を胚胎する。金、銀鑛を目的として試掘せる際、螢石並びに水鉛の薄脈を發見したが、其の量は極めて僅少であつた。昭和16年 9月中旬、東京高等師範學校教授藤本博士に實地調査を依頼した結果も、微量で採掘するには全然問題にならぬ由であつた。(豊澤)

角山の軟マンガン鑛

調査月日 昭和16年10月11日

位置 綾歌郡坂出町角山東側

地質及産状 角山の東側にマンガン鑛の露頭が巾20cm、長さ約 2m、黒褐色の塊けとして露出する。露頭の西部に池があり、冬期の湧水期には池内の岸邊にも露頭が見られる。尙附近の谷間にも小規模の露頭があるが何れも少量である。(小松・猿谷)

尾路の石炭

調査月日 昭和16年10月12日

位置 香川郡下笠井村尾路

(第九圖)

地質及産状 現在水田となり全然石炭を試掘せし跡を認めないが、34年前福家市太郎氏は全氏宅より 100m南方にて多分礫質凝灰岩中亞炭脈を認め、地下に 3m掘り下げ、更に西に34m試掘せしも、利用し得る程度の亞炭を採掘し得ず中止せしと云ふ。(坂口)

弓弦羽金山の金鑛原内の褐鐵鑛

調査月日 昭和16年10月5日

標本 44.44.45.46.47.49

位置 香川郡下笠居村弓弦羽金山及黄峯西南麓原内 (第九圖)

地質及産狀 本地域は花崗岩(所々内緑岩の露出する所あり、又片麻岩に移行せる部分あり)上に礫質凝灰岩を推積し、更に上部に輝石安山岩を噴出してゐる。併し金山には輝石安山岩の噴出なく、礫質凝灰岩中に肉眼にて褐鐵鑛とも云ふべき露頭の厚さ10cm-70cmもの不規則に夾在する。金の試掘を行ひたるも此の鑛脈の部分で、褐鐵鑛の試掘も此の部分である。

参考事項 第九圖父1は金山中腹標高80mの所に坑向S10°Eにして30°N10°Wに傾き、1.4mの方形坑を深さ凡30m掘りたる由なるも今は數m以上は不明である。以下何れも舊幕時代に試掘し、後下笠居村山下傳三郎氏試掘者なるも現在滿洲に居住する爲詳細の調査出來ず。 第九圖



mもありたると云ふ。

第九圖父3は父1と同一地質の部を掘る方形坑にして坑向S40°W深さ3m海岸線近くの位置にあり。第九圖父4は位置地質坑道共に父3に似る。第九圖父5は方形坑にて、海岸線近くにあり。坑向N20°Wにして深さ10m以上不明なるも相當深きものゝ如く、坑道の周囲は小礫質白色凝灰岩にして陶石として良質

第九圖父2は金山の東麓海岸線近くに舊坑あり、海岸線近くには礫質凝灰岩と接觸變質せる閃雲花崗岩とが30°の傾斜で接觸する部分に坑道を掘る。坑向Wにして水平の方形坑で5mの深さより左右に分れ、左はW50°N、右はW20°N、何れも深さ5m以上は不詳なるも凡30

と思はれる。第九圖父6は龜山淺五郎氏宅の東側海岸線近くにある方形坑にして坑向W15°N水平に凡30mの深さある由なるも數m以上は不詳にして父1と同一地部を發見し兼ねる程度に露天掘を行ひ褐鐵鑛ありと報告したるものにて鑛脈の中10cm-20cmにして走向S30°Eとす。 (坂口)

紅峯の金錫亞鉛

調査月日 昭和16年10月12日

標本 50.51

位置 香川縣下居村小坂の海岸 (第九圖 ac間)

地質及産狀 紅峯は標高247mにして、前述金山地方と同一地形にあり、海岸通りを調査すると唯基底花崗岩は金山地方以上に半花崗岩及片麻岩に移行せる部分多く、又閃緑岩を球狀にレンズ狀に大きさも直徑數厘より數米の塊を露出してゐる。此の閃緑岩の風化物と思はれる黑色微粒を多分に交へる砂が小坂の海岸に分布する。雲母の外少量の磁鐵鑛及チタニウム鑛の黑色微粒であると考へられる。

参考事項 金錫亞鉛の埋藏は全く認められず上述のチタニウム鑛は含量によりては有望と思はれる。 (坂口)

川窪の砂金

調査月日 昭和16年10月12日

位置 香川縣下笠居村住吉川下流川窪 (第九圖)

地質及産狀 住吉川は黄峯に源を發する故金鑛ありとすれば住吉川の砂中にも砂金を産する理由だが河滿水の爲調査未了に終る。 (坂口)

高塚山の柘榴石

調査月日 昭和16年10月5日

位置 香川郡淺野村高塚山

地質及産狀 高塚山は花崗岩の基盤上に安山岩の噴出せるもので、その雲母安山岩中に小粒の柘榴石を含む。量乏しく採掘に堪えざるものである。 (猿谷)

吉野山の柘榴石

調査月日 昭和16年10月7日

標本 52

位置 木田郡前田村高田吉野山

地質及産状 吉野山は高田停留所より100m東北にある標高103.4mの小山にして、全山雲母安山岩よりなる。多少角閃石と小粒の柘榴石を少量含む。母岩の風化物及含柘榴石量等より考へ、採掘価値なしと思はれる。(坂口)

福栄村の石炭

調査月日 昭和19年 8月22日

位置 大川郡福栄村字宗延

地質及産状 宗延は山間の部落で附近一帯は和泉砂岩より成り、湊川の上流がこの部落を貫流して西より東に向つて流れる。石炭はその川の北側の断崖面に露出する。巾約3-4m、長さ7-8mである。尙之れより稍々北方に位する小川の川底にも極く少量露出する所がある。該炭は和泉砂岩系の頁岩中に黒色の炭質物を含むもので石炭と稱する程度のものでない。火中に投じても燃焼せず、且つ埋蔵量も貧弱である。(岡)

小田村馬の鼻の石炭

調査月日 昭和16年 8月10日

標本 19

位置 大川郡小田村馬ヶ鼻より50m西北 (岡)

地質及産状 馬の鼻の大部は花崗岩及雲母片岩上に、凝灰岩を推積する。此の一部波打際から稍々高い位置に砂礫質凝灰岩の層があり、此の母岩中に厚さ2cmより10cmの亞炭脈の露頭がある。脈の走向S10°W稍南に傾く。

参考事項 舊坑は殆んど海波の爲に砂浸入し、6m以上は埋められてゐる。亞炭脈に沿ひ縦1m横1.2mの方形坑である。埋蔵は少量で問題とならない。(坂口・岡)

多和村の石炭

調査月日 昭和16年 8月 7日 8日

標本 1.2.3

位置 大川郡多和村力石、助光の三本峠、横川 (第十圖)

地質及産状 讃岐山脈の和泉砂岩層中の含炭素質頁岩で同砂岩が淺海性の堆

積物なる故、海藻様の炭素物と考へられる。鑛脈の厚さ 20cm—120cmのもの力石に 2ヶ所、三本松峠に數ヶ所、横川に數ヶ所ある。走向は概ね N40°—60°Eにして南へ22°下るもの多く、中には水平のもの、又彎曲を見るものもある。此の鑛脈は讃岐山脈全部に分布し花崗岩帯との接觸部に近き程、炭素量多く又硫黄分も一般に含まれてゐる。可燃性は低く使用に堪へないが、分布廣く採掘も甚だ容易であるから乾溜してタールを取るとか其の他の使用の途が開ければ、採掘に望を懸けられる。(坂口)

助光兼割拂川の金、銀、銅、鑛脈

調査月日 昭和16年 8月7日 8日

標本 5.6.7.8.8.' 9.9.' 10.11.12.12.'

位置 大川郡多和村助光及兼割五名村拂川 (第十圖)



地質及産状

五名村銅床と同じ地質及産状にありて助光の河底に現れてゐる露頭(第十圖5)の走向はE20°Nで南に30°傾き厚さ180cmあり、又兼割

の溪谷底に現れてゐる露頭(第十圖9)は、走向前者に同じくして南に10°傾き、前者と略同じ厚さを存する。又大窪寺本堂裏の溪谷床にある露頭(第十圖9)は走向略々前者に同じくして南に33°傾き厚さ100cmあり、更に東方辨天様の藪中の露頭(第十圖9)も前者に同じ、拂川の河底に現れてゐる露頭は(第十圖10.10')走向E20°Nにして厚さ180cmあり何れも黄銅鑛を少量、黄鐵鑛を相當含有する。試掘所有者岡田寛賢氏の語によれば、此の外金、クロームを含む。拂川河底には樹枝狀の鑛脈の露頭(第十圖11)あり。厚さ1cm—10cmあり、岡田寛賢氏の語によれば、前者は金8.3銀23を含む。更に兼割の溪谷底にも前者に似たる露

頭(第十圖四.8)で金2を含むといふ。兼割の豁谷底には(第十圖8)花崗岩中の石英脈に沿ひ蛇紋岩様の樹枝狀の鑛脈があり、重石の疑がある由であるが筆者には不明であつた。又近くに花崗岩中石英脈に沿ひ黄鐵鑛を相當を含む露頭(第十圖7)がある。第十圖12.12'は何れも花崗岩中に石英脈を有する處で前記岡用氏によれば金を含む。

参考事項 以上は大窪寺岡田寛賢氏の試掘權を有する鑛區で、専門家の調査及分析も再三行にれた由であるが記録が不十分である。要するに銅床の鑛脈と同質と思はれる。前述5.6.9.9.'10.10.'の他は鑛脈小にして望少しと考へられる。(坂口)

五名村銅床の黄銅鑛脈

調査月日 昭和16年8月29日

標本 32.33.84.

位置 大川郡五名村鈴竹の銅床部落

地質及産狀 同地方は全部花崗岩地帯で黒綠色の閃綠岩の脈を夾み、閃綠岩中に黄銅鑛、黄鐵鑛が含有される。六車熊吉氏宅の南方150mの鑛脈は走向S20°W巾1.2mにして20°東に傾き豁谷底に露頭が現れてゐる。尙銅床の谷底には走向N20°E巾4mの鑛脈—走向S15°E巾4mの鑛脈も見える。

参考事項 前記前者の鑛脈の露頭に添ひ水平に縦12m横1.3m奥行30m以上の舊坑があり、最近大川郡石田村藤井某氏試掘せし由である。貧鑛であるが鑛脈の分布が廣いので單なる銅鑛としては採掘出来ないが、他に貴金屬でも隨伴すれば有望な鑛區とならう。(坂口)

長濱ヒヨジの金鑛

調査月日 昭和16年9月23日

標本 39

位置 大川郡鴨庄村長濱字ヒヨジ日盛山西南麓

地質及産狀 日盛山は標高185.1mにして兩雲母花崗岩より成り、數個の石英脈に依つて貫ぬかれてゐる。金掘場は日盛山西南麓の石英脈を試掘せしものである。

参考事項 舊坑は約20年前試掘したもので方2m殆ど垂直に約15mの深さに達したる由であるが、數年前の砂防工事の爲、埋没して跡を認めない。上記石英脈中の黄鐵鑛に着目して金の試掘を行ひたるものと思はれる。(坂口)

大串の硅石金鑛黄鐵鑛

調査月日 昭和16年9月23日

標本 41.42

位置 大川郡鴨庄村長濱大串

地質及産狀 大串岬は花崗岩より成り、上部は凝灰岩を推積し、又一部には安山岩が花崗岩を貫き、又數個所に閃綠岩脈及びペグマタイトの露出を見る。ペグマタイト中の石英脈長石脈は硅石として採掘し盡し、鑛脈の狀況不明である。

参考事項 鑛石は當地の渡邊岩吉氏採掘し、大阪及び名古屋方面に搬出した。露出の下部に黄鐵鑛の附着する石英脈を認めて、金含有を考へ鑛山監督局に分析を依頼したが貧鑛であつた由である。(坂口)

第十一圖 砂鐵の產地

丹生村北山の砂鐵

調査月日 昭和16年10月16日

位置 大川郡丹生村北山海岸

地質及産狀 主として花崗岩より成り處々に安山岩を伴ひ又注入變成岩と覺しきものも介在する。砂鐵を産する地域は瀬戸内海に面する海岸遠淺の地域で、海岸から沖合約100mで丸龜島並びに女島及び之に面する小半島を結ぶ線の北面並びに北東面せる海岸より沖合約60--70mの石英砂中に黒色光澤ある小粒狀砂鐵を混在する。冬期西風強き時季には甚で多量に海底より吹寄せられる如く、海岸は



冬季は黒色に被はるゝ由である。然し海岸の該區域は約8—9mの小範圍なる爲その量は左程豊富でない。(岡)

苦張及日盛山の含鐵鑛物

調査月日 昭和16年8月20日

位置 大川郡小田村字苦張 全郡鴨庄村字長濱方面日盛山

地質及産狀 此の地域は花崗岩を主とし、石英斑岩を伴ふ。鑛物は日盛山々頂の一帶に巾3m位にて、40—50mの間に帯狀に露出する。該場所は砂防工事を施せる爲発見せられたる處もある。金屬を含む鑛物として早くより着目せられ、既に一、二度発見を企だてた事がある。鑛脈中に石英を多く含み又處々に白雲母の大きさ2cm位の結晶を成せるものを含む。採掘に堪へざる貧鑛である。(岡)

第十二圖



金山の鐵鑛

調査月日 昭和16年8月12日 16日

標本 22

位置 大川郡石田村山王と同富田村末行に亙る。(第十一圖)

地質及産狀 金山は標高100m全山ライオデサイトよりなり走向F20°S、傾斜は西へ5°下る。略々此の線に添つて幅1cmより100cmの褐鐵鑛少量黄鐵鑛を含む鑛脈が樹枝狀に閃綠岩を脈石として介在する。

参考事項 舊幕時代試掘したと思はる舊坑金山南岸及西南崖下の標高40m附近にあり、前者は各々水平なる坑道

で左右に分れ、各數十米の深さを有し、後者の坑道は5mである。昭和15年7月大川郡神前村植田某氏試掘を行ひ、高松市花園町水原病院長は鑛山局に依頼して分析を行つた結果、金銀も含む事が明かになつた。肉眼的に見ゆる褐鐵

鑛、黄鐵鑛と併て考ふれば貧鑛であるが金の含有量によつては、研究の餘地あらうと思はれる。(坂口)

長濱の海岸のチタニウム鑛

調査月日 昭和16年9月23日

標本 43.44

位置 大川郡鴨庄村長濱東部海岸

地質及産狀 海岸約1.5kmに沿ひて花崗岩の砂中に黒き小粉即雲母(主)磁鐵鑛(少量)チタニウム鑛(少量)を含む。母岩は主として前述大串の閃綠岩と思はれる。貧鑛の上分布も狭く望なしと考へられる。(坂口)

日内山の硅石

調査月日 昭和16年8月26日

標本 31

位置 大川郡志度町大字未日内山

地質及産狀 日内山(石鎚山)は標高198.6m全山石英斑岩よりなる。此母石中ペグマタイトの最も發達せる石英脈の露頭は標高は約170m日内山奥院より300mの日内山の東側小溪谷の崖下に現はれ、脈の中3m走向はE5°Sである。

参考事項 石英は美しい白色半透明、長石は赤褐色で共に優良にして搬出も便利であるが露頭より推量すれば、埋藏少い様である。(坂口)

水主大社の硅石

調査月日 昭和16年8月22日

位置 大川郡譽水村大字水主大社

地質及産狀 花崗岩より成る約90mの山頂の東面に露出し幅約4m、高さ2mの層にて西に向ひ山頂を貫く。良質の石英を主とする脈で薔薇長石を混在する。その量は豊富でないため一度採掘に掛つたが間もなく中止した。(岡)

水主笠松の硅石

調査月日 昭和16年10月19日

位置 大川郡譽水村水主笠松

地質及産狀 笠ヶ峯の北東山腹に當り約400mの高所に在り、附近一帶花崗岩

より成り良質の石材も産する。約25年前に採石してガラス原料として大阪方面へ送つた由で、現在は中止しその跡を残すのみとなつて居る。(岡)

水主西内の硅石

調査月日 昭和16年10月19日

位置 大川郡譽水村水主西内

地質及産状 本地域を構成する花崗石を貫くペグマタイト岩脈中の硅石を採取する。こゝ三年前まで採石したが、現在は中止し採石場は開墾せられて、その上部に少しく石英脈の露出せるまゝ放置してある。品質は良好であるが量が乏しい。(岡)

吉金の陶土陶石

調査月日 昭和16年8月19日

標本 25。

位置 大川郡富田村吉金前山、遊良山 (第十二回)

地質及産状 遊良山は標高100m、前山は遊良山の北麓と見られる小丘で共にライオデサイトよりなり走向はS85Eである。

参考事項 讃岐道八焼の釜跡を残す處で陶土陶石として古くは盛に利用せられたるものである。露頭には鐵分を相當含み、ライオデサイトは赤褐色を呈し、陶器原料としては不適である。遊良山の東南標高90mの位置に陶石を採掘せる跡がある。(坂口)

酸化鐵

調査年月日 昭和16年10月4日

位置 坂手村サキ山笠ヶ鼻「水落」谷海岸

地質及産状 橋部落から約3軒漁船にて約50分にして達する。附近花崗岩の岩角が海に面し鋭く現はれ當時風雨かなり強く辛うじて船をつける事が出来た。遠くから見ると花崗岩上幅約二米長さ三十米位、黒色の層横に走り所々に褐色のヤケが現れた様に見えるが、近く寄れば黒色部は一面雲舟片岩で所々褐色の酸化鐵の薄層となり附近に黄銅鑛等を認めない。鐵鋼としての資源價值はない。(中村・松尾)

陶石

調査年月日 昭和16年10月4日

位置 苗羽村古江乙ノ11番地龜ノ浦

地質及産状 坂手の西北部約1軒ノ地點にあり、西北部は海に面し半島形に突出し反対側は僅にバスの通路をへだて、小高き丘陵となり殆んど全表面褐色の陶石よりなる。表面積數町歩、地表下相當の厚味を有してゐる。バス通路附近の表面は風化して陶土となり粘性は割合に少い。

参考事項 可成古くから採掘したが、淵崎村大谷の林松之助氏に至り約10年前に質悪化したため中止し現在に及んでゐる。

陶石は表面褐色であるが、割ると純白の膚を現はし純白のものと中に黒色の斑點を有するものとある。(黒色のものは角閃石なるか?)賣出せし時は一等品、二等品、三等品の三種に分ち一等品は陶磁器原料として主に京都に送り(京都市本町一の橋松風陶器合名會社、京都清水町一丁目松風會社)二等品は大阪窯業貝塚工場等へ耐火煉瓦原料として發送し、三等品は伊部焼の原料としたと謂ふ。現在は其の地にある龜屋旅館の地面が一等品に類する由である。(中村・松尾)

第四項

調査の結果全然問題とならぬもの及び事實無根と考へられるもの。

莊内村の所謂金掘場と稱するもの

調査月日 昭和16年10月11日

位置 三豐郡莊内村紫雲山(352.3m)の頂上平坦地から北東箱部落に向つて下ること約100m。

地質及産状 前記個所に金掘場と稱し高さ1.5m、幅1m、深さ18mの坑道(開墾の年不詳)があるけれども、この附近全部安山岩からなり有用金屬鑛物産出手懸りは全然ない。(八幡・高瀬)

神田村の金

調査月日 昭和16年10月12日

位置 三豐郡神田村

地質及産状

参考事項 女子師範からの報告に神田村より金を産すとあつたため同村當局とも連絡をとり種々調査したるも全然手懸がない。恐らくは前記詫間村宇神田の誤りであらう。(八幡・高瀬)

生子山の砂金(雲母)

調査月日 昭和16年11月2日

標本 53

位置 綾歌郡昭和村生子昭和国民学校東側の小山

地質及産状 生子山は花崗岩を基盤とし輝石安山岩を噴出す。西側は頂上近くまで開墾され果樹園となる。各所調査したるも金を含むが如き石英脈等を全く認められず、後国民学校及當地の鑛山の趣味家西村五郎氏の應援を求め調査したるに、黒雲母花崗岩の風化したる花崗岩砂中の雲母の風化したものを砂金と傳へしと判明したのである。(坂口)

火ノ山鑛山

調査月日 昭和16年8月14日

場所 綾歌郡陶村火ノ山

参考事項 タングステンを産するとの傳説であつたが、調査の結果は單なる花崗岩の地で全然見込ない山である。(豊澤)

袋山、猪尻山の金鑛

調査月日 昭和16年10月26日

位置 香川郡端岡村袋山並びに猪尻山

地質及産状 袋山の中腹以下は花崗岩より成り上部は古銅輝石安山岩に覆はれる。猪尻山も袋山も同様であるが、兩者の岩石間に凝灰岩を狭む。袋山の花崗岩の風化した土壤中に黄金色をなせる雲母を多量に含む所がある。猪尻山には中腹より少々下方の谷間に金の試堀を行つたと云ふ所があるが金鑛らしきものを採し得なかつた。(鏡谷)

下笠居村の金鑛

調査月日 昭和16年8月18日

位置 香川郡下笠居村神在鼻 (第九圖)

地質及産状 神在鼻突端の進入花崗岩内の石英脈を採掘せるもので高さ1.6米幅約1米の坑道を穿つ。石英脈の幅15米高さ30米餘、少々綠色を帯びた粒狀構造を有する石英で、何等著しき特徴を認めず。

参考事項 下笠居村の某氏が採掘して大阪へ送り鑛區の出願をなしたが、現在放棄の状態である。有望なる見込なし。(森)

和佐山の銅鑛試掘坑並びに金掘場

調査月日 昭和16年9月30日

位置 木田郡西植田村和佐山

地質産状 銅鑛は和佐山東部中腹の花崗岩の部分を試掘したもので、鑛石は長石に富み鐵分によつて代赭色に染鑛せられたもので銅鑛と認定する事は出来ない。

金掘場は山の南部の山腹を舊幕時代に穿つたもので、附近は進入花崗岩の風化したるもので、金鑛としては疑はしい。(森)

神山村の廣野の川床

調査月日 昭和16年10月26日

位置 木田郡神山村廣野

地質産状 廣野部落南方の川床内の青色の岩石に銅を産すると稱せられて居る。該岩石は花崗岩内に進入した内綠岩様の岩石で、銅鑛ではない。

参考事項 大川郡大窪寺附近に同様の岩石を産し、多少の黄銅鑛を含有するので廣野の青色岩石にも含銅の疑を以て、試掘願を提出中であるが、提出者自身も大なる期待を懸けてゐない。(森)

石槌山の白銅鑛

調査月日 昭和16年10月26日 11月4日

位置 木田郡神山村堂ヶ平

地質産状 堂ヶ平の裏山に産するとの報告であつたので二回の調査を行つたが、白銅鑛と覺しき鑛石を發見しない。(森)

五名村の水銀鑛

調査月日 昭和16年10月5日

位置 大川郡五名村字日下金穴口

地質及産状 地域は花崗岩より成り、金穴口と稱するは殆んど之が分解して所謂山土となつた所である。日下国民学校から約100m西方鈴竹部落に通ずる道路の北側に小坑がある。往昔は人の自由に出入出来る坑であつたが、現在道路工事のため埋没して痕跡を残すのみである。水銀鑛らしきものは見當らなかつた。(岡)

馬ヶ鼻の金銅鑛石

調査月日 昭和16年10月17日

位置 大川郡小田村馬ヶ鼻

(第七圖)

地質及産状 馬ヶ鼻半島の小田に近い地域は花崗岩より成り片麻岩を處々に夾在する。此の海岸の兩者の接觸せる部分に、昔金を産したと稱せらるゝ坑が二ヶ所ある。幅1m深さ5—6mの坑があるが、海砂に埋れて居る。舊幕時代に土地の人が試掘した由であるが結果は詳でない。又馬ヶ鼻楡木野之浦の部落の上部一帯にも鑛石を産すると稱せれるが此の地域は凝灰岩で處々に安山岩の岩塊を有するのみで、鑛石の存する如き事は全く考へられない。(岡)

浦小田の榴柘石

調査月日 昭和16年8月10日

標本 18

位置 大川郡小田村浦小田海岸西端

(第七圖)

地質及産状 花崗片麻岩中に、多量の柘榴石を含むもので露頭は海岸に面する部分に幅10m高さ50mが明らかに見られる。此の岩脈は延びて同村逢坂峠の西側に至る。

参考事項 花崗片麻岩の風化は程度低く僅かに逢坂峠の西側東山白河原大池附近にて柘榴石を少量採集し得る程度で大量採集には不向である。(坂口)

結 言

今回は短時日の間に縣下一圓に亙りて探査したもので、従つて其の探究も廣く浅いと云ふ傾向は免れず、必ずしも適確遺漏なきものとは云難い。併し本縣の地質構造諸種の開込等に基いて相當基礎的探査を遂げたものであるが、直ちに事業化し得る目星しいものを得られなかつたのは遺憾である。

扱て本調査の結果を持寄つて専門家の批評を求め將來の資としてはと云ふ計畫から大阪鑛山監督局技師中野剛氏の出張を仰いで十一月八日午後二時より約三時間に亙つて調査報告と批評とを兼ねて座談會を開催した。其の内重なるものを掲げると、先づ斯く博物學會が先頭に立ち多數の委員協力して地下資源を調査されてゐることは、全國に恐らく此の例はなく誠に時局下感謝の外はないことを述べられし後、(1) 詫間村の金鑛は百萬分の三位の含有量で採算が採れるかどうか目下金一瓦三圓八拾錢で、一噸の鑛石中一瓦の金があつて約四圓であるが、一噸の鑛石を採掘鑛製煉するに其の費用は最小限約三拾圓を要するのであるから、少くとも一噸の鑛石中十瓦以上の金を含有せぬと採算はとれぬものである。(2) 讃岐山脈一圓に亙つてある含炭素質炭岩(俗に石炭)は専門でないため批評難だが、炭素の含有量少く、現在の状態では燃料としての利用の見込は薄い。尤も廣範圍に豊富に存在して採掘も極めて容易であるので、何か用途を見出す事が出来れば大變面白いと思はれる。(3) 縣下に廣く分布してゐる硃石、陶土、陶石を合同統制して大事業化しては如何かと考へて見ても、斯くの如きものは寧ろ小規模手内職式に閑期の利用等低勞賃銀を利用するのでなければ採算はたゝぬと思ふ。(4) 縣下所々に分布する砂鐵、並褐鐵鑛に就いては、周知の通り鐵は金等に比して價格も極めて安きため、相當豊富にあり且つ含有量が多量でなければ採算は出ない。目下の産状では到底不可能であらう。(5) チタニウム、金等に就いては含有量が未だ判然せぬので、云々の批評がなかつた。(6) 本縣の如く花崗岩地帯の多い所では、寧ろタングステン鑛、モリブデン鑛等や安山岩地帯から金の探査が有望かと思はれる。

以上は本縣に於ける鑛物資源の一端を述べたのに過ぎない。其の實際に對しては眞に九牛の一毛に類せんも計り難い故、今後長年月に亙つて官民が一致協力下さいまして、精査探査に努められ以つて地下資源の開発に御貢獻せられんことを切望する次第であります。

(協會久米)

香川縣博物學會々告

◎會員諸兄並に會誌購讀會員へ謹告

1. 本年度會誌第五號として香川縣鑛物資源調査報告書を代發行致します。理由は昨年夏以來、香川縣地方工業化協會の事業として、縣下鑛物資源の調査方を縣學務及商工課兩當局より御依頼されました。會長は理事會を招集し協議の結果、時局下甚だ喫緊事と考へ微力乍ら御當局の御意志に添ひ努力奉公致すべく快諾し、會長以下會員十二名が委員となり、實地調査延日數 110日餘、實地調査地 200餘ヶ所、委員會を四回、座談會一回開いて調査書が出来た次第で不備不完全の點は多々あると致しても、意義あるものとして理事會で會誌に代へる決議となりました。従つて會誌に掲げてゐました博物學會記事は、次號に掲げる事に致します。此點不惡御了承を願ひます。

2. 現下大東亞戰爭の眞最中、正に超々非常時局下のことゝて申すまでもなく、中等學校、國民學校を問はず相互提携し會員協力一致、眞に一丸となり博物教育向上の爲一段奮勵努力致し度う存じます。何卒會誌を御利用下さつて、各會員の研究は勿論本會の發展に益々御盡力下さる様御依頼申し上げます。

昭和十七年三月十日印刷

〔非賣品〕

昭和十七年三月十五日發行

編輯者 兼發行人 香川縣地方工業化協會
香川縣博物學會

代表者 主事 久米清

印刷者 在木武喜

印刷所 高松刑務所作業課

發行所 香川縣地方工業化協會
香川縣博物學會
香川縣高松第一中學校内
香川縣商工課内

特249

989

終